

令和5年度

教育委員会事務の点検・評価
報 告 書
(令和4年度事業分)

令和5年12月
黒部市教育委員会

目 次

I	令和5年度教育委員会事務点検・評価実施方針	
1	趣旨	1
2	点検・評価の対象	1
3	点検・評価の方法	1
II	教育委員会の運営状況	
1	教育委員会及び行政組織	3
2	会議開催経過等	4
3	令和4年度黒部市教育の方針	6-11
III	点検・評価の結果（個別事業シート一覧）	12
	（個別事業シート）	
	（1）人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育	
	①家庭教育	13
	②地域教育	15
	（2）心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育	
	①幼稚園、学校等の円滑な運営	16
	②確かな学力	22
	③国際化教育	26
	④特別支援教育	30
	⑤心の教育	31
	⑥読書活動	33
	⑦キャリア教育	34
	⑧健康・体力	35
	⑨安全	39
	⑩教育環境の整備	42
	（3）生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ	
	①青少年の健全育成	44
	②女性活動事業の推進	45
	③生涯学習機会の提供	47
	④市民文化活動の推進	52
	⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用	55
	⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進	58
	⑦スポーツ施設の整備・充実	61
	⑧競技力の向上	62
	⑨スポーツを通じた地域振興	65
	⑩健やかな子どもの育成とスポーツの充実	68
IV	学識経験者の意見	70

I 令和5年度教育委員会事務点検・評価実施方針

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、黒部市教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価（以下「点検・評価」という。）を実施する。

2 点検・評価の対象

令和4年度中に教育委員会で実施した事務事業

3 点検・評価の方法

（1）自己点検・評価基準

「令和4年度黒部市教育の方針」に掲げる施策の分野に基づき、個別事業毎に点検・評価シートを作成し、次の5段階による総合評価を行う。

評価	評価の基準等	評価の目安
A A	目標を十分に達成し、期待以上の成果が得られた。	100% 以上
A	目標を概ね達成し、ほぼ期待どおりの成果が得られた。	80 ～100%
B	目標を半分以上達成し、ある程度の成果が得られた。	60 ～ 80%
C	目標をあまり達成できず、成果が少なかった。	30 ～ 60%
D	目標をほとんど達成できず、成果がなかった。	0 ～ 30%

（2）教育振興協議会への諮問

教育委員会が自己点検・評価したものについて、市民の各層から構成された委員（公募含む）9人による黒部市教育振興協議会において、客観的な視点で検討する。

◇黒部市教育振興協議会（任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日）

役職	氏 名	選出団体等
会 長	漆 間 中 郎	黒部市自治振興会連絡協議会
副会長	白 川 正 秋	黒部市体育協会
委 員	米 屋 祐 治	黒部商工会議所
委 員	山 田 美穂子	黒部市農業協同組合
委 員	横 山 栄一郎	黒部市社会教育委員会
委 員	家 敷 誠 貴	黒部市PTA連絡協議会
委 員	大 坂 由喜子	黒部市小学校長会
委 員	柴 田 由 明	黒部市中学校長会
委 員	平 正 夫	公募委員

（3）学識経験者の知見の活用

黒部市の教育に関し学識経験を有する方から、教育委員会の自己点検・評価に対する意見を聴き、報告書に記載する。（巻末に記載）

(4) 議会への報告及び公表

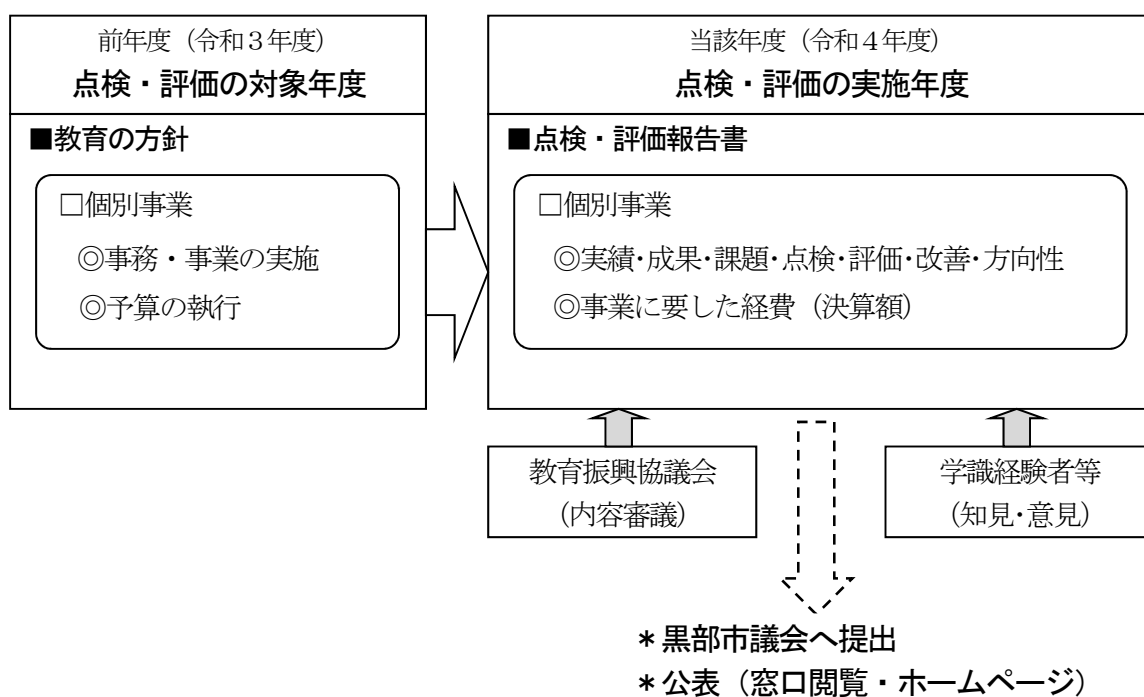
点検・評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、教育委員会等窓口での閲覧及び黒部市のホームページへの掲載等により広く市民に公表する。

(5) スケジュール

- 6月7日 点検・評価シート各課照会（原稿作成期間）
- 7月17日 点検・評価シート提出期限（自己点検・評価原案作成期間）
- 8月28日 教育委員会8月定例会（諮問内容についての報告）
- 8月28日 教育振興協議会（教育委員会からの諮問・審査）
- 9月4日 教育振興協議会（審査・教育委員会へ答申）
- 9月26日 教育委員会9月定例会（内容の決定）
- 11月 日 学識経験者等の意見追加（報告書完成）
- 12月市議会 黒部市議会（定例会）に報告、公表（窓口閲覧、ホームページ等）

(6) 「教育の方針」と「点検・評価」の関係

教育委員会事務の点検・評価は、各年度の「教育の方針」に基づき実施された個別事業を対象とし、個別事業の課題や今後の方向と合わせ、事業に要した経費の決算額を反映し作成する。



II 教育委員会の運営状況

1 教育委員会及び行政組織

(1) 教育委員会（令和5年3月31日現在）

職 名	氏 名	年齢	性別	任期	備 考
教育長	中 義 文	66	男	R元. 5. 10～R 7. 5. 9	
教育長職務代理人	紙 谷 真 紀	52	女	R 2. 5. 10～R 6. 5. 9	
委 員	浅 野 詠 子	68	女	R 3. 5. 10～R 7. 5. 9	
委 員	吉 澤 浩 司	52	男	R 4. 5. 10～R 5. 5. 9	
委 員	濱 田 賢	42	男	R 4. 5. 10～R 8. 5. 9	保護者

(2) 行政組織（教育委員会事務局）

（令和5年3月31日現在）

■教育長	□教育部長	◎学校教育課 ————— ◇学校教育班	○庶務係 ○施設係 ・ 9 小学校（生地、たかせ、石田、村椿、中央 桜井、荻生、若栗、宇奈月） ・ 2 中学校（清明、明峰）
		◎生涯学習文化課 ————— ◇ジオパーク推進班 ◇交流センター企画運営班	○生涯学習係 ○女性青少年係 ○文化振興係 ・ 吉田科学館 ・ 美術館 ・ 歴史民俗資料館 ・ 生涯学習文化スクエア ・ 地区公民館(16館) ・ ふれあい交流館 ・ 働く婦人の家 ・ 勤労青少年ホーム ・ 郷土文化保存伝習館 ・ 地域観光ギャラリー展示空間
		◎スポーツ課 —————	○スポーツ推進係 ○フルマラソン係 ・ 総合体育センター ・ 宇奈月体育センター ・ 健康スポーツプラザ ・ 錬成館
		◎図書館 —————	○奉仕係
		◎学校給食センター —————	○庶務係
		◎教育センター	
	(市民福祉部長)	◎こども支援課—————	○保育所・幼稚園係 ・ さくら幼稚園

2 会議開催経過等（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

（1）教育委員会議

- ①定例会12回（毎月）
②臨時会 1回（5月）

	会議名	開催日時		会議名	開催日時
1	4月定例会	令和4年4月27日(水)	8	10月定例会	令和4年10月27日(木)
2	5月臨時会	令和4年5月10日(火)	9	11月定例会	令和4年11月24日(木)
3	5月定例会	令和4年5月25日(水)	10	12月定例会	令和4年12月27日(火)
4	6月定例会	令和4年6月28日(火)	11	1月定例会	令和5年1月27日(金)
5	7月定例会	令和4年7月28日(木)	12	2月定例会	令和5年2月24日(金)
6	8月定例会	令和4年8月26日(金)	13	3月定例会	令和5年3月28日(火)
7	9月定例会	令和4年9月29日(木)			

（2）審議事項等

① 議案 26件（原案可決）

件	会議名	議 案 名（※議案番号は暦年）	
1	4月定例会	議案第13号	黒部市社会教育委員の委嘱
2		議案第14号	黒部市図書館協議会委員の任命
3		議案第15号	黒部市文化財保護審議会委員の委嘱
4		議案第16号	黒部市美術館運営審議会委員の任命
5		議案第17号	黒部市歴史民俗資料館運営委員会委員の委嘱
6		議案第18号	黒部市スポーツ推進審議会委員の委嘱
7	6月定例会	議案第19号	黒部市生涯学習文化スクエア運営委員会委員の委嘱
8	7月定例会	議案第20号	教育課程特例校指定の継続
9	9月定例会	議案第21号	令和4年度教育委員会事務の点検・評価（令和3年度事業分）
10	11月定例会	議案第22号	黒部市立学校等職員服務規則の一部改正
11	1月定例会	議案第1号	令和4年度黒部市教育文化表彰被表彰者(朝倉豊次教育希望賞)の決定
12		議案第2号	令和4年度黒部市教育文化表彰被表彰者(優良教員)の決定
13		議案第3号	令和4年度黒部市教育文化表彰被表彰者(優良生徒)の決定
14		議案第4号	令和4年度黒部市教育文化表彰被表彰者(スポーツ)の決定
15		議案第5号	令和4年度黒部市教育文化表彰被表彰者(社会教育)の決定
16		議案第6号	令和4年度黒部市伝承芸能・伝承技術士の認定
17		議案第7号	令和5年度黒部市立幼稚園の収容定員
18	2月定例会	議案第8号	令和5年度黒部市教育の方針
19	3月定例会	議案第9号	黒部市教育委員会行政組織規則の一部改正
20		議案第10号	黒部市学校給食センター規則の一部改正
21		議案第11号	黒部市立公民館条例施行規則の一部改正
22		議案第12号	黒部市立図書館規則の一部改正
23		議案第13号	黒部市吉田科学館条例施行規則の一部改正
24		議案第14号	黒部市美術館条例施行規則の一部改正
25		議案第15号	黒部市立図書館雑誌スポンサー制度実施要綱の制定
26		議案第16号	黒部市立図書館障害者等郵送貸出事業実施要綱の制定

報告 44 件

件	会議名	件 名
1～12	毎月	課等の事業報告（経過・予定）
13	4 月定例会	黒部市立公民館長の任命
14		黒部市教育支援委員会委員の委嘱
15		黒部市教育振興協議会委員の委嘱
16		黒部国際化教育推進協議会委員の委嘱
17		黒部市学校評議員の委嘱
18	5 月定例会	黒部市尾山の七夕流し・中陣のニブ流し映像記録作成委員会設置要綱の制定
19		令和4年度一般会計6月補正予算（教育委員会関係）の概要
20	6 月定例会	令和5年度国・県に対する重要要望事項(教育委員会関係)
21		黒部市議会において議決された教育委員会関係議案
22		黒部市議会6月定例会一般質問及び答弁要旨(教育委員会関係)
23	7 月定例会	令和4年度一般会計7月補正予算案（教育委員会関係）の概要
24		黒部市働く婦人の家運営委員会委員及び黒部市勤労青少年ホーム運営委員会委員の委嘱
25	8 月定例会	令和4年度一般会計9月補正予算(教育委員会関係)の概要
26		令和4年度教育委員会事務の点検・評価(令和3年度事業分)の諮問
27	9 月定例会	令和5年度保育所・幼稚園・こども園等の入所受付
28		黒部市議会において報告された事項（1）
29		黒部市議会において報告された事項（2）
30		黒部市議会9月定例会一般質問及び答弁要旨(教育委員会関係)
31	10月定例会	令和4年度黒部市自治功労表彰及び黒部市表彰の被表彰者（教育委員会関係）
32	11月定例会	黒部市議会において報告された事項
33		令和4年度12月補正予算（教育委員会関係）の概要
34	12月定例会	旧山彦橋調査委員会設置要綱の制定
35		黒部市議会12月定例会一般質問要旨及び答弁（教育委員会関係）
36	1 月定例会	令和5年度黒部市教育の方針(案)の諮問
37		令和5年度就学通知の発送及び入学予定者数
38		市議会1月臨時会において議決された教育委員会関係議案
39		令和5年度学校給食費
40	2 月定例会	令和5年度一般会計予算(教育委員会関係)の概要
41		令和4年度一般会計3月補正予算(教育委員会関係)の概要
42		令和5年度黒部市学校給食費
43	3 月定例会	教育委員会関係例規の制定等
44		黒部市議会3月定例会一般質問要旨及び答弁（教育委員会関係）

4 令和4年度 黒部市教育の方針

I 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

1 家庭教育

(1) 家庭の教育力の向上を図る ～学習機会の提供～

子どもの人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上を図るため、子育て講座等の家庭教育に関する学習機会の提供に努める。

(2) 心身ともに健康な子どもを育てる ～交流活動の機会の提供～

子どもの健康な心と体を育むため、親子や地域の人々との世代間の触れ合い・交流の機会の提供・充実に努める。

(3) 明るい家庭づくりをサポートする ～子育て支援体制の整備・充実～

やすらぎのある明るい家庭づくりができるよう、子育て支援体制の整備・充実に努める。

2 地域教育

※「幼稚園」は、「こども園」を含む。以下同様。

(1) 子どもたちの社会性や実践力を育てる ～豊かな体験活動の推進～

生活する地域や環境に対する子どもたちの意識を高めながら、社会性や実践力を育成するため、郷土の伝統や文化、自然、人材を活かした社会体験や自然体験、ボランティア活動等の豊かな体験活動を地域ぐるみで推進する。

(2) 子育て支援機能を十分発揮できるようにする ～親と子の育ちの場の充実～

地域における幼児教育のセンター（親と子の育ちの場）としての役割を果たすため、保育所、幼稚園が、子育て支援機能を十分に発揮できるように努める。

II 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

1 幼稚園、学校等の円滑な運営

(1) 創意工夫を活かした質の高い教育活動を推進する ～実態に応じた教育課程の編成～

幼稚園、学校において、幼児児童生徒や家庭及び地域の実態を的確に把握し、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントの視点を活かした質の高い教育活動を推進する。

(2) 開かれた幼稚園、学校づくりを推進する ～学校評価等の活用と連携・協働～

園評価、学校評価を活かし、市民の信頼に応える社会に開かれた幼稚園、学校づくりを推進するため、積極的に情報発信を行い、家庭や地域との連携及び協働に努める。

(3) 相互の交流を深める ～幼児児童生徒への一貫した教育の推進～

保育所、幼稚園、小学校、中学校が連携し、一貫した教育を推進するため、参観や体験を通して相互の交流を深める。

2 確かな学力

(1) 資質・能力の育成と学習習慣の確立に努める ～確かな学力の育成～

① 「本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導の工夫・改善を推進する。

② 「確かな学力」の育成のために、各教科や特別活動、総合的な学習の時間において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力等及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図るとともに

に、一人一人に応じた指導の充実に努める。

- ③ 授業と家庭学習の内容を連動させながら、課題の与え方を工夫し、学習習慣の確立に努める。
- ④ 情報モラルを身に付け、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な情報活用能力の育成に努める。
- ⑤ 一人一人の能力や特性に応じた個別最適な学びと他者との協働的な学びの一体的な推進に向けて、一人一台端末の環境を活かし、学習支援ソフト等を効果的に活用した教育の充実に努める。
- ⑥ 小学校高学年における教科担任制を推進し、授業の質の向上を図るとともに、小・中学校の円滑な接続や児童生徒に対する多角的な理解に努める。

(2) 論理的な思考力や伝え合う能力を育てる ～言語活動の充実～

論理的に思考して表現する能力や、互いの考えや立場を尊重して伝え合う能力を育成するために、各教科等の特質に応じた言語活動を充実する。

(3) 1時間の授業を充実させる ～ガイダンスとカウンセリングの充実による「分かる」「できる」授業の推進～

- ① 学習のねらいと学習課題、学習活動、評価規準の整合性を図り、その上で、学習課題の提示、書いて考える活動、考えを伝え合う活動、学習の成果の確認・評価を工夫し、「分かる」「できる」授業を推進する。
- ② 一人一人の学習状況を把握し、個に応じた指導の充実に努めるとともに、指導の改善に活かすよう努める。
- ③ 集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応するカウンセリングの双方の指導をより一層充実する。
- ④ 学習課題に対して指示された条件を満たして解決していこうとする意欲や能力面を意識した指導を充実する。
- ⑤ コンピュータや多様な情報通信ネットワークといった情報手段のほか、各種統計資料や新聞、視聴覚教材や教育機器等、教材・教具の適切な活用を図り、児童生徒の主体的な学びの充実に努める。

(4) 児童生徒が安心して参加できる授業づくりに努める ～生徒指導の機能の充実と集団としての学習規律の確立～

- ① 児童生徒と教職員の信頼関係や児童生徒相互の人間関係づくり、自己選択や自己決定を促すという面での生徒指導の機能を活かす。
- ② 鉛筆の持ち方、情報端末やノートの使い方、返事、発言の仕方、聞き方、話合いの仕方、学習時の姿勢等、技能面や態度面を意識した学習規律の確立に努める。

3 国際化教育

(1) 他者に配慮したコミュニケーション能力を育てる ～英会話等と日常的な英語活動の充実～

- ① 英語による総合的なコミュニケーション能力を育成するため、英語を楽しみながら他者を理解し、自分を表現する英会話等と日常的な英語活動の一層の充実に努める。
- ② 即興的に短い会話をする活動を取り入れ、英語で自分の考えや気持ち等を伝え合う素地を養う。

(2) 魅力的な教育プログラムを実施する ～英語に対する学習意欲の向上～

海外姉妹都市との連携事業や英語サマーキャンプ等、魅力的で実践的な教育プログラムを充実することにより、児童生徒の英語に対する学習意欲の向上を図る。

(3) 自他の文化を尊重し、共生する態度を育てる ～地域ぐるみによる国際化教育の推進～

日本や郷土の文化・伝統を尊重するとともに、様々な文化をもつ人々と共生する態度や資質を育てるため、地域ぐるみで国際化教育、帰国児童生徒・外国人児童生徒教育を推進する。

4 特別支援教育

(1) 教育的ニーズに応じた特別支援教育を推進する ～支援体制の充実と関係機関との連携～

- ① 特別な支援を必要とする幼児児童生徒に対する教育を推進するため、合理的配慮について子どもや保護者と合意形成を図るとともに、一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすための校内支援体制の充実に努める。

- ② 適応指導教室や特別支援学校等の相談機関、医療等の専門機関との連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた指導や支援を充実する。

(2) 特別支援教育の視点を活かす ～学校運営、学年・学級経営と授業づくり～

- ① 学習の見通しをもたせる、分かりやすい言葉で短く話す、学習内容の理解を視覚的な支援を用いてサポートするなどの配慮を意識する。支援を必要とする子どもへのこれらの配慮は、全ての子どもに対して効果的であるという観点を十分に踏まえ、学校運営、学年・学級経営及び授業づくりに活かす。
- ② 単元設定や教材・教具の工夫等に努めることで興味・関心を高め、学習意欲を継続させながら、スモールステップや繰り返しによる指導を通して、達成感や成就感を味わうことができるようにする。

5 心の教育

(1) 教育活動全体で「心の教育」を推進する ～豊かな人間性の育成～

- ① 児童生徒の「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度」を育てるために、道徳教育の要となる「特別の教科 道徳」(道徳科)の授業についての研修を一層深め、「考える道徳」「議論する道徳」の授業を推進するとともに、一人一人の内面の成長を捉え、指導に活かすよう努める。
- ② 生命を大切に、感動する心をもった豊かな人間性を育むため、よりよい生き方を追求する道徳教育や自然に親しむ体験活動の充実を図るなど、教育活動全体を通して「心の教育」を推進する。
- ③ 情報化社会の進展に合わせ、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、犯罪等を踏まえ、道徳的な観点からもより一層の情報モラルの育成に努める。

(2) 心と態度を育てる ～自己有用感・人間関係を構築する力・自律心・不とう不屈の精神の育成～

- ① 幼児児童生徒の自己有用感を高める。
- ② 思いやりの心を育むとともに、望ましい人間関係を築こうとする態度や自律心の育成を図る。
- ③ 最後までやり遂げようとする心と態度の育成を図る。

(3) いじめや不登校等を生まない、見逃さない学校(園)運営に努める ～行動の一元化とチーム支援～

- ① いじめや暴力行為、非行等の問題行動や不登校児童生徒を生まない、見逃さない環境(人的・物的)づくりと教育相談体制の整備・拡充に努める。
- ② 幼児児童生徒及び教職員の「自分も相手も大切にする」「差別や偏見を許さない」という人権意識の高揚に取り組むとともに、安心して心のつながりを深めることができる居場所づくりに努める。
- ③ 幼児児童生徒を複数の視点で見守り、「心」のサインや小さな変化を見逃さないようにするとともに、児童生徒が相談しやすく、またSOSを出しやすい環境づくりに努める。
- ④ 情報の共有と行動の一元化、継続した支援に向けてケース会議や学校いじめ対策組織による対策会議を計画的に開催し、SC(スクールカウンセラー)・SSW(スクールソーシャルワーカー)等の専門家との連携も含め、チームによる支援を充実する。
- ⑤ 適応指導教室や医療等の専門機関との連携を図りながら、児童生徒の社会的自立に向けて、一人一人の状況に応じた支援に努める。
- ⑥ 適応指導教室やICT等を活用した学習支援等、教育機会の確保に努める。

6 読書活動

(1) 豊かな感性や創造性を育てる ～市立図書館と連携した読書活動の推進～

豊かな感性や創造性を育むため、幼児児童生徒が読書に親しむ環境の整備に努めるとともに、市立図書館とも連携しながら、「黒部市子ども読書活動推進計画」に基づいた活動や「ふるさととやま読書月間」の取り組みを推進する。

7 キャリア教育

(1) 自立に向け必要な基礎となる能力を育てる ～基礎的・汎用的能力の育成～

- ① 一人一人の児童生徒のキャリア発達を促すよう指導・支援に努め、人間関係形成能力、自己管理能力、課題対応能力、将来設計に必要なキャリアプランニング能力等を育成する。

- ② 自己の成長や学びの足跡を記した「キャリア・パスポート」を活用するなど、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育成する。

(2) 望ましい勤労観や職業観を育てる ～体験的な活動の充実～

児童生徒一人一人が自己理解を深め、主体的に進路を選択できるよう、小学校における勤労生産・奉仕的な活動や中学校における職場体験活動等の体験的な活動を充実させ、望ましい勤労観や職業観の育成に努める。

8 健康・体力

(1) 健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図る ～心身の健康づくりの推進～

- ① 健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図るため、給食の時間、特別活動、各教科等での食育指導、学校保健活動を通して、心身の健康づくりを推進する。
- ② 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等に対する基本的な感染症対策を実践できるよう指導するとともに、学校医等の専門家と連携した保健管理体制の構築に努める。

(2) 運動に親しむ子どもを育てる ～体力の向上～

運動に親しみながら体力の向上を図るため、体育科・保健体育科の時間を核に体育的行事等の運動との関連を図った体育的諸活動の充実、家庭や地域と連携した取り組みを推進する。

9 安全

(1) 安全な環境をつくる ～地域ぐるみのネットワークづくりの推進～

- ① 幼稚園、学校の安全な環境づくりのため、保護者や地域住民と共に幼児児童生徒を守る地域ぐるみのネットワークづくりを推進する。
- ② 家庭や地域とのリスクコミュニケーションに努め、相互理解と連携を図りながら新型コロナウイルス感染症の感染対策に取り組む。

(2) 危険に対する判断力・対応力を育てる ～安全・防災・防犯教育の推進～

事故や災害、不審者・クマ・イノシシ対応等への幼児児童生徒の危険に対する的確な判断力や対応力を高めるため、安全教育（生活安全や交通安全）や防災・防犯教育を一層推進する。

10 教育環境の整備

(1) 安全・安心な環境整備に努める ～改修・改築・保守点検～

- ① 安全で安心して学習できる環境を整備するため、老朽施設の改修や改築の計画的実施に努める。
- ② 高度情報化に対応して、通信ネットワーク環境を活かした学びの保障に向けてのICT機器の設備・備品の整備及び保守点検に努める。
- ③ 新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染防止、熱中症等への対策として、時節や状況に応じた教室内の机の配置や換気を行うとともに、空調機器を適切に活用する。

(2) 児童生徒をたくましく育てる ～適正な学校規模の実現～

児童生徒が望ましい教育環境の中でたくましく育つように、「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、今後の児童生徒数の見通し、通学上の安全性や遠距離通学対策等を考慮しながら、保護者及び地域の理解と協力のもと、学校規模（児童生徒数、学級数）の適正化に努める。

III 生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ

1 青少年の健全育成

(1) 青少年の社会性を育てる ～多様な体験活動の場の提供～

青少年の社会性を育むため、地域において多様な体験活動の場を提供するなど、家庭・学校・地域・関係

機関の連携のもとに青少年の健全育成に努める。

- (2) 自然や科学への興味・関心を育てる ～社会教育施設の有効活用～
身近な自然環境や吉田科学館を活用して、青少年期の自然や科学への興味・関心を育てる。

2 女性活動事業の推進

- (1) 女性の自立した活動を拡大する ～活動の支援と連携～
女性の自立した活動を支援するため、女性団体の組織力向上と活性化を図り、各種事業を推進する。

3 生涯学習機会の提供

- (1) 全世代型の学習の場と機会を提供する ～社会教育施設の充実～
 - ① 自主的・主体的に学ぶことのできる場及び機会を提供するため、市民の多様な学習ニーズに応じた各種講座の開催や、公民館及び博物館等社会教育施設の充実を図る。
 - ② 公民館については、地域づくり活動の拠点施設としての実態も踏まえ、生涯学習施設として必要な機能とあり方を検討し、利用しやすい環境を整備する。
- (2) 「(仮称)くろべ市民交流センター」を整備する ～市民交流センターの整備～
中心市街地への都市機能の立地や居住の誘導を図るとともに、図書館を核に生涯学習や情報の収集・発信・保存など市民の知的好奇心を満たす多機能融合施設として、「(仮称)くろべ市民交流センター」を整備する。

4 市民文化活動の推進

- (1) 芸術文化にふれる機会を増やす ～芸術文化活動の推進～
市民の芸術文化活動を推進するため、優れた芸術文化の鑑賞や親しむことができる機会の提供・充実に努める。
- (2) 自発的に創作活動ができるようにする ～芸術文化活動への支援～
市民が自発的に新しい創作活動や研究に取り組めるよう、芸術文化活動の支援・育成に努める。
- (3) 美術館、吉田科学館の企画事業の充実を図る ～芸術文化・科学教育の充実～
市民の芸術文化の振興、科学教育の普及のため、美術館及び吉田科学館の企画事業の更なる充実を図る。

5 文化遺産及び自然遺産の保護活用

- (1) 郷土愛の醸成と高揚を図る ～保存・伝承活動への支援、地域文化の普及～
地域の伝統文化による郷土愛の醸成や高揚を図るため、芸能・伝統行事の保存・伝承活動を支援する。また、文化財の保護・調査研究、市民への地域文化の普及に努める。
- (2) 立山黒部ジオパーク事業を推進する ～SDGs・ESDの実践～
富山県東部に広がる多様で豊かな自然を保護・保全し、多彩な文化を継承するとともに、地域振興や教育などに活かしていくことでSDGs・ESDを実践する。

6 「市民ひとり1スポーツ」の推進

- (1) 市民がスポーツに親しむことができるようにする ～スポーツ機会の充実～
市民一人一人が、それぞれのライフスタイルに応じて、多様なスポーツに主体的かつ継続的に親しむことができるようにするため、市体育協会や地区体育協会と協働し、地域との連携を図りながらスポーツ機会の充実を図る。
- (2) 地域住民主体のスポーツ活動を推進する ～地域力の醸成～

地域住民が主体となったスポーツ活動を推進するために、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動を通じて地域力の醸成を図り、「市民ひとり1スポーツ」の更なる定着に努める。

7 スポーツ・レクリエーション施設の整備・充実

(1) スポーツ施設の整備と利便性の向上を図る ～スポーツ施設の充実～

気軽にスポーツを楽しむことができるよう施設や備品の整備並びに長寿命化を計画的に進めるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上及び安全管理の強化を図る。

8 競技力の向上

(1) 全国レベルで活躍する選手を育てる ～支援体制の充実～

優秀なクラブチームや全国・ブロック大会で活躍する選手を育成するための支援を行う。

(2) 各種競技力の向上を図る ～クラブチームとの連携・支援体制の強化～

① 市体育協会が中心となり各競技協会や地区協会の活動を支援することで、クラブチームとの連携・支援体制を強化し、各種競技力の向上を図る。

② 意欲ある中学生への支援策として、競技協会を主体としたクラブ創設を促し、部活動以外の活動組織の拡大と競技力の向上を目指す。併せて、小学生への支援策についても、中学生への支援策につながる取り組みを図る。

9 スポーツを通じた地域振興

(1) 生涯スポーツ社会の実現を図る ～全国レベルのプレー観戦の場の提供～

生涯を通じて豊かなスポーツライフを送ることができる生涯スポーツ社会の実現を図るため、全国規模の各種大会を開催し、全国トップレベルのプレー観戦の場を市民に提供することにより、競技力向上に寄与するとともに、スポーツに対する興味・関心を高める。

(2) スポーツを通じて地域の活性化を図る ～スポーツによる本市のPR～

黒部市を訪れた選手・観客に本市の素晴らしさをPRするため、カーター記念黒部名水マラソンの開催、東京 2020 オリンピックホストタウンとしてのレガシーの承継及び優秀スポーツクラブへの支援をはじめ、各種スポーツを通じて地域の活性化を図る。

10 健やかな子どもの育成と学校体育・スポーツの充実

(1) KUROBE 型地域部活動の推進 ～中学生の競技力向上と教員の働き方改革の実現～

生徒にとって望ましい持続可能な部活動と教員の働き方改革の実現に向けて、地域の専門的指導者による地域部活動の段階的な移行を図る。

(2) 体力の向上、運動の習慣化を推進する ～運動・スポーツの好きな子どもの育成～

運動することや各種競技等のスポーツに、意欲的に取り組む子どもを育成するため、保育所、幼稚園、学校、地域、家庭、関係機関と連携し、子どもの体力向上を図る。

(3) 発育期の運動器障害の発症予防と早期発見による児童生徒の健全な育成を図る ～子どものスポーツ障害防止策の充実～

過度のトレーニング等によって、スポーツ活動を断念することがないように、中学校の運動部、スポーツクラブ、スポーツ少年団及び市民病院と連携したスポーツ障害防止策を講じる。

Ⅲ 点検・評価の結果

教育委員会の事務事業の執行状況（個別事業シート一覧）

<p>(1) 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育</p> <p>①家庭教育</p> <p>(1) 親子での体験事業(親子自然体験教室) [13P]</p> <p>(2) 20歳を祝う式の開催 [14P]</p> <p>②地域教育</p> <p>(1) 放課後子ども教室推進事業 [15P]</p>	<p>⑩教育環境の整備</p> <p>(1) 学校施設の大規模改修・耐震補強工事 [42P]</p> <p>(2) 黒部市立小中学校再編計画の推進 [43P]</p>
<p>(2) 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育</p> <p>①幼稚園、学校等の円滑な運営</p> <p>(1) 学校評価の取組 [16P]</p> <p>(2) 幼・こ・保・小・中学校の連携 [17P]</p> <p>(3) 適応指導教室(ほっとスペース「あゆみ」) 事業 [18P]</p> <p>(4) 奨学資金貸付・給付事業 [19P]</p> <p>(5) 就学援助事業 [20P]</p> <p>(6) 幼稚園教育の充実 [21P]</p> <p>②確かな学力</p> <p>(1) 全国学力・学習状況調査 [22P]</p> <p>(2) 教職員研修・研究委員会・研究指定校 [23P]</p> <p>(3) 学校訪問 [24P]</p> <p>(4) 情報教育 [25P]</p> <p>③国際化教育</p> <p>(1) 英会話科等の実施 [26P]</p> <p>(2) 英語サマーキャンプ [27P]</p> <p>(3) 姉妹都市交流研修事業 [28P]</p> <p>(4) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育 [29P]</p> <p>④特別支援教育</p> <p>(1) 特別支援教育支援員(スタディ・メイト) 事業 [30P]</p> <p>⑤心の教育</p> <p>(1) 豊かな体験活動推進事業 [31P]</p> <p>(2) いじめ不登校対策 [32P]</p> <p>⑥読書活動</p> <p>(1) 学校司書配置事業 [33P]</p> <p>⑦キャリア教育</p> <p>(1) 14歳の挑戦事業 [34P]</p> <p>⑧健康・体力</p> <p>(1) 食育の取組 [35P]</p> <p>(2) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 [36P]</p> <p>(3) スポーツエキスパート派遣事業 [37P]</p> <p>(4) 給食センターの衛生管理、調理・洗浄業務、給食配送業務 [38P]</p> <p>⑨安全</p> <p>(1) 安全管理 [39P]</p> <p>(2) 遠距離通学対策(スクールバス運行事業・通学定期券補助金) [40P]</p> <p>(3) AED管理事業 [41P]</p>	<p>(3) 生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ</p> <p>①青少年の健全育成</p> <p>(1) 青少年育成黒部市民会議助成事業 [44P]</p> <p>②女性活動事業の推進</p> <p>(1) 配偶者等暴力被害者相談事業 [45P]</p> <p>(2) 女性団体の育成 [46P]</p> <p>③生涯学習機会の提供</p> <p>(1) コミュニティづくり推進事業 [47P]</p> <p>(2) 生涯学習フェスティバル開催事業 [48P]</p> <p>(3) 市民教養講座・市民カレッジ事業 [49P]</p> <p>(4) 読書普及事業 [50P]</p> <p>(5) 図書団体貸出事業 [51P]</p> <p>④市民文化活動の推進</p> <p>(1) 黒部市芸術祭の開催及び芸術体験の充実 [52P]</p> <p>(2) 芸術文化活動団体助成 [53P]</p> <p>(3) 詩の道句集事業 [54P]</p> <p>⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用</p> <p>(1) 伝統文化の保存継承 [55P]</p> <p>(2) 埋蔵文化財の発掘調査 [56P]</p> <p>(3) 立山黒部ジオパーク事業 [57P]</p> <p>⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進</p> <p>(1) 市民体育大会 [58P]</p> <p>(2) スポーツ推進委員協議会の育成 [59P]</p> <p>(3) 総合型地域スポーツクラブ [60P]</p> <p>⑦スポーツ施設の整備・充実</p> <p>(1) スポーツ施設の整備・充実 [61P]</p> <p>⑧競技力の向上</p> <p>(1) 優秀スポーツクラブ育成補助 [62P]</p> <p>(2) 出場派遣費・激励費 [63P]</p> <p>(3) 選手強化 [64P]</p> <p>⑨スポーツを通じた地域振興</p> <p>(1) カーター記念黒部名水マラソン [65P]</p> <p>(2) VリーグDIVISION1黒部大会 [66P]</p> <p>(3) 東京2020オリンピックレガシー承継事業 [67P]</p> <p>⑩健やかな子どもの育成とスポーツの充実</p> <p>(1) 幼児期の体力づくり事業・ちびっ子・わんぱく教室事業 [68P]</p> <p>(2) KUROBE型地域部活動事業 [69P]</p>

(1) 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

施策の分野	①家庭教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの人間形成の基礎を培う家庭の教育力の向上を図るため、子育て講座等の家庭教育に関する学習機会の提供に努める。 ・子どもの健康な心と体を育むため、親子や地域の人々との世代間の触れ合い・交流の機会を多くするよう努める。 ・やすらぎのある明るい家庭づくりができるよう、子育て支援体制の整備・充実に努める。

個別事業名	(1) 親子での体験事業(親子自然体験教室)					
担 当 課 等	生涯学習文化課 生涯学習係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	350		350		
	R 4	300		300		
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 地域の自然や暮らし、伝統文化を体験学習することにより、ふるさと教育や家庭での親子の絆、地域の絆の深化を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 小学生の親子を対象に公民館において「はつらつ公民館学び支援事業」(6拠点で実施)を実施した。 郷土愛醸成や郷土芸能の継承、3世代交流、自然体験活動等で、新たな試みやふるさとの学びを推進する事業を実施し、公民館活動ならではの体験の機会を提供できた。 実施にあたり地域の方々に協力や指導をいただき、地域とのつながりが強まった。 (体験交流型…ふるさとの学びや自然体験活動) 生涯学習文化スクエア、三日市、若栗、東布施、下立、浦山 ※ 新型コロナウイルス感染症予防への十分な配慮と活動の両立に取り組んだ。					
	年度	開催回数	受講者数			
	R 3	34 回	765 人			
R 4	27 回	1,564 人				
点 検 ・ 評 価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 黒部の子どもたちが、地元の歴史や豊かな自然を感じ、楽しみながら学びを深められることにつながる体験・ふるさと学習ができた。また、この活動を通して、地域の方々と世代を超えた交流も深めることができた。 ※ コロナ禍にあっても、今出来る工夫を皆さんで話し合い、「コロナでもできる」活動を実施し、成果があげられることを実証できた。					
課題・改善	コロナ禍で様々な活動が制約を受ける中、かえって人と人との心のつながりを紡ぎ直す機会となり、地域コミュニティの「つながり」が実感された。この取組を活かしたうえで、今後どのような活動に繋げていくかが課題である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 地域の方々と交流しながら、学校や家庭ではできない活動を通して自然や地域について学ぶことができていると考えており、今後も同様の事業継続を支援したい。					

個別事業名	(2) 20 歳を祝う式の開催					
担 当 課 等	生涯学習文化課 女性青少年係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	609			609	
	R 4	635			635	
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 令和4年度に20 歳を迎える市民等を対象に式典を催し、市を挙げて祝福する。 また、20 歳の方が社会人としての自覚を深め、また、ふるさとのよさを再認識してもらえる式を目指す。 開催に向け、20 歳の方自らが自身の力で作り上げる式典を目指し、希望に満ちた門出となるよう準備を進める。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ◎20 歳を祝う式出席者					
	年度	対象者数	参加人数	参加率		
	R 3	447 人	362 人	81.0%		
	R 4	400 人	331 人	82.8%		
	20 歳の有志による実行委員会を立ち上げ、アトラクションの内容、記念品等について決定し、司会を20 歳の方が行った。 成人となって初めての社会貢献として、交通安全宣言署名運動に取り組んだ。					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 20 歳の有志による実行委員会を立ち上げ、自分達の力で思い出に残る20 歳を祝う式にするため意見を出し合い、思い出の写真や恩師からのメッセージ映像、記念品に自分達の思いを込めることができた。20 歳の方が司会やあらゆる場面で積極的に参加したことで20 歳の方主体の式典となり、列席者から好評を得た。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 式典会場には大勢の来場者がおり、参加者が会場内を円滑に移動しづらい場面が見られた。感染症対策等も考慮した動線の設定など、運営を検討する必要がある。 なお、令和4年4月1日に施行された改正民法により、成年年齢が20 歳から18 歳に引き下げられることから、令和4年度より式の名称を「20 歳を祝う式」に改称し、20 歳の方を対象に式典を開催することに決定した。 また、多くの20 歳の方及び保護者が一堂に会することから、本市の魅力を発信し、参加者の郷土への関心を高めるよい機会と捉え、担当課と連携し、将来のU ターンにつなげる企画の実施等、検討が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 20 歳の方の意向を尊重した式としての開催を今後も目指しながら、実行委員会による式典運営を継続することで、温かみのある手作りの式となるよう準備をすすめる。					

施策の分野	②地域教育
方針・目標	<p>・生活する地域や環境に対する子どもたちの意識を高めながら、社会性や実践力を育成するため、郷土の伝統や文化、自然、人材を生かした社会体験や自然体験、ボランティア活動等の豊かな体験活動を地域ぐるみで推進する。</p> <p>・地域における幼児教育のセンター(親と子の育ちの場)としての役割を果たすため、保育所、幼稚園が、子育て支援機能を十分に発揮できるよう努める。</p>

個別事業名	(1) 放課後子ども教室推進事業																				
担 当 課 等	生涯学習文化課 女性青少年係																				
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源															
	R 3	1,170	390	390		390															
	R 4	757				757															
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>少子高齢化や核家族化の進展等、子どもを取り巻く社会環境の変化によって、家庭の教育力が低下し、地域ぐるみの子育てが重要視されている。</p> <p>放課後や週末等において、学校の余裕教室等を活用して、子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域住民等の参画により、学習や様々な体験交流活動の機会を定期的・継続的に提供することで、子どもたちが地域社会の中で心身共に健やかに育まれる環境づくりを推進する。</p>																				
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>黒部市内全小学校9校区で、放課後や休日に、地域の人材と特色を活かした自然体験、文化活動、レクリエーション活動等を実施した。内容としては祭囃子や書道、茶道、工作、体力づくり教室など、各地区の特色を活かした教室を開催している。</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の感染防止対策と活動の両立を工夫し、実施した。</p> <table><tr><td>年度</td><td>実施校区数</td><td>教室回数</td><td>参加児童数</td><td>指導者数</td></tr><tr><td>R 3</td><td>9校区</td><td>120回</td><td>1,710人</td><td>305人</td></tr><tr><td>R 4</td><td>9校区</td><td>112回</td><td>1,431人</td><td>265人</td></tr></table>						年度	実施校区数	教室回数	参加児童数	指導者数	R 3	9校区	120回	1,710人	305人	R 4	9校区	112回	1,431人	265人
年度	実施校区数	教室回数	参加児童数	指導者数																	
R 3	9校区	120回	1,710人	305人																	
R 4	9校区	112回	1,431人	265人																	
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>地域の特色を活かした教室を各校区で実施することにより内容が充実し、地域に定着してきた。各教室の指導者には、子どもたちの体験のサポートを毎回熱心に行ってもらっている。祭囃子といった地域文化に触れることができる教室の開催により、地域文化の継承にもつながっている。</p> <p>料理教室では、新型コロナウイルス感染症予防のため、調理を個人ごとで行い、持ち帰りできるメニューにするなどの配慮・工夫により、子どもたちが楽しく学ぶことのできる教室を開催した。</p>																				
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>実施回数等の観点から子どもたちに等しく体験機会を提供することができるよう、企画の工夫、実施場所や方法等についての調整と連携をする必要がある。</p> <p>また活動を継続的に実施していくために、地域での指導者を確保するとともに、各校区の学童保育との連携強化を検討する必要がある。</p>																				
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>放課後子ども教室推進事業を継続し、引き続き全小学校区での実施を目指す。指導者の確保については、スポーツ推進委員等の協力を得られるよう努めるとともに、団塊世代、地元指導者を巻き込みながら、地域の子どもは地域で育てるという意識づくりを進める。</p>																				

(2) 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

施策の分野	①幼稚園、学校等の円滑な運営					
方針・目標	・幼稚園、学校において、幼児・児童・生徒や家庭・地域の実態を適確に把握し、組織的・計画的にカリキュラム・マネジメントの視点を生かした質の高い教育活動を推進する。 ・園評価、学校評価を生かし、市民の信頼に応える社会に開かれた幼稚園、学校づくりを推進するため、家庭や地域と連携及び協働する。 ・保育所、幼稚園、小学校、中学校の一貫した教育を推進するため、参観や体験を通して相互の交流を深める。					
個別事業名	(1) 学校評価の取組					
担当課等	学校教育課 学校教育係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 【学校経営の評価】 学校の教育目標の実現に向けて、創意工夫を活かした学校づくりに努めるため、学校経営や教育活動についてPDCAサイクルによる定期的・総合的な評価を行い、成果と課題を明確にしながら、更なる改善・向上を目指す。 【アクションプラン】 各校の実態に応じ、教育目標と一貫性のある重点及び数値目標を、知育・徳育・体育の3部門で作成する。評価結果を公表し、家庭や地域社会からの信頼に応える学校づくりを目指す。 【学校評議員制度】 黒部市学校評議員規程を設け実施しており、校長の推薦を基に、各校5～8人の学校評議員を委嘱している。必要に応じ年に数回、学校評議員会を開催し、教育活動の評価（児童生徒、保護者、教職員）の公表、学校評議員からの意見聴取を行い、学校評価（外部評価）の一助とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 【学校経営の評価】 全小中学校で学校評価を実施した。実施内容は、各校で多少の相違はあるが、各種教育活動に関する評価を児童生徒、保護者、教職員の三者によるアンケート形式で実施し、その結果を分析・集約したものが多く。総括については、学校評議員会や学校だより、ホームページ等で公表するとともに、次年度の学校の教育目標の見直し及び教育計画作成への反映に努めている。また、教員の目標達成度評価（校長へ提出）も実施している。6月までに目標と方策の作成、9月に中間評価、2月には年度の最終評価を、毎回、管理職との面談とともに実施した。校長の目標達成度評価は、教育長への報告事項とし、教育長による個別面談を実施した。 【アクションプラン】 知育・徳育・体育の3つの観点から具体的な取組目標と方策を掲げ、達成率によって検証している。具体目標の主なもの、家庭学習の充実、挨拶の推進、望ましい生活習慣の育成等である。 【学校評議員制度】 日々の教育活動について、その実績と自己評価について学校評議員へ提示し、助言を受けることにより、成果や課題を多面的に捉えることができた。また、評価結果を積極的に発信することで、学校の教育活動に対して保護者や地域の人々の協力が得られるとともに、地域全体で児童生徒を育成する体制づくりに繋がった。					
点検・評価	総合評価	A（前年評価	A）	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 教育活動に対する評価は年々見直しがなされ、結果を次年度の目標に生かすなどPDCAサイクルが確立されてきた。前年度の学校評価や教育活動における成果と課題を分析することで、自校の教育活動のよさや強みを掌握し、学校経営ビジョンの見直しにも役立った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) カリキュラム・マネジメントの視点やアフターコロナでの生活様式等を踏まえ、これまでの取組を見直しながら、自校のよさや強みを活かした教育課程の編成に努める必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 内容の充実を図りながら継続実施する。					

個別事業名	(2) 幼・こ・保・小・中学校の連携					
	学校教育課 学校教育班、教育センター					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>幼・こ・保、小、中で、研修会、相互参観、幼児観察、連絡会、中学校区別校長懇談会等の連携事業を企画・実践することにより、互いの教育の内容や方法に対する理解を深め、発達の段階に応じた指導に活かす。また、一人一人の子どもの個性、ものの見方や考え方を共有することで、それぞれに相応しい一貫した連続性のある効果的な指導体制や指導方法を見いだし、小1プロブレム（小学校に入学したばかりの1年生が、集団行動をとれないなど、学校生活に馴染めない状態が続くこと）や中1ギャップ（一部の児童が、小学生から中学1年生に進級した際に被る、心理や学問、文化的なギャップと、それによるショックのこと）の解消及び発達障害のある子どもの受入体制の整備等に役立てる。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【幼児観察・連絡会】</p> <p>各小学校では、幼・こ・保との連絡会を開催し、来年度入学する幼児の観察や情報交換を行った。特に発達障害のある幼児については、一貫性のある継続的な支援を行うため、効果のあった取組や保護者の教育的ニーズ等、情報共有を図った。</p> <p>【1学年生活科における交流】中止</p> <p>保・こ・幼から小学校への円滑な接続を目指して、例年、各小学校では1学年生活科の授業の中で、年長児と1年児童と一緒に活動する機会を設けているが、今年度もコロナ禍のため中止した。代わりに、生活科の学習の中で作成した手づくりおもちゃや学校紹介等の作品、お手紙など保育所に届けた学校もあった。</p> <p>【訪問研修（相互参観）】</p> <p>1・2学期には小・中学校において学校訪問研修に教員が相互参観を行った。</p> <p>【研修会等における小・中学教員の交流】</p> <p>生徒指導に関する研修会や協議会において、中学校区ごとにグループを編成し、小・中学校教員が情報交換を行ったり、課題を共有し解決の方策を共に考えたりした。</p> <p>理科研究委員会や情報教育研究委員会、外国語教育研究部会において、小・中の教員が共に研究や研修に取り組む中で、それぞれの専門性や経験から得た知見を交流することができた。</p>					
点検・評価	総合評価		A（前年評価	A）	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載	
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>幼・こ・保、小、中の連携について、コロナ禍のため、交流を縮小せざるを得ない状況がみられた。</p> <p>少人数での教員同士の連携の在り方を工夫し、情報交換や情報共有を実施した。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>校区別の教務主任、生徒指導主事等の懇談会や小学6学年担任と中学1学年担任との情報交換会等をさらに拡充する必要がある。発達の段階における課題や地域の特性等を明確にし、個別の教育支援計画等をもとに学習・生活両面における効果的な指導の進め方や円滑な接続の在り方について連携を深める必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ、継続していく。</p>					

個別事業名	(3) 適応指導教室（ほっとスペース「あゆみ」）事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班、教育センター					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	3, 446				3, 446
	R 4	3, 726				3, 726
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>小中学校の不登校児童生徒について、適応指導教室 「ほっとスペース『あゆみ』」(黒部市勤労青少年ホーム内) において、学校や関係諸機関と連携を図りながら、多面的なアセスメントをもとに支援を行う。</p> <p>相談活動を充実させ、個に応じた援助や指導を行うことで、児童生徒の社会性や協調性を養い、自立心を培って学校生活への復帰や社会的自立を促す。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p>					
	年度	通所者数	相談件数（来所）			
	R 3	12 人	96 件（52 件）			
	R 4	15 人	52 件（26 件）			
点検・評価	<p>児童生徒への支援については、黒部市教育センター所員との合同ミーティングの実施や、関係学校教員とのケース会議を実施し、情報共有をしながら進めた。。また、個別の指導計画の作成と評価の実施、スクールソーシャルワーカーによる支援等を通して、一人一人の児童生徒へのより適切な支援の方法を模索しながら指導を進めた。</p> <p>登校意欲が低下し通所している児童生徒の中には、適応指導教室での学習や作業、体験活動、集団活動等を通して意欲や自信を高め、登校を再開したり、登校の状況が改善したりした例もあった。(教室復帰 5 人、相談室登校 5 人)</p> <p>月に 1 回(第 2 木曜日)、保護者と指導員、保護者同士が懇談する場（おしゃべりカフェ）を設けた。延べ24人が参加し、保護者同士のつながりをつくる場となった。</p>					
	総合評価	A（前年評価	A）	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>不登校児童生徒の心の居場所として有意義な教室になっており、子ども一人一人の特性や実態に応じた指導ができた。指導員と保護者の信頼関係、保護者同士の好ましい人間関係が形成されたことにより、児童生徒にもよい影響があり、教室復帰、部分登校、相談室登校等、改善が見られた。</p> <p>保護者向けに教育相談の案内を年 3 回配布しており、年間を通じて教育相談が寄せられている。面談、電話、SNS 等、保護者が相談しやすい方法で連絡があった。相談内容については、相談者の意向を尊重しつつ、必要とされるものは教育センターと相談しながら当該校に連絡し、共通理解を図ることができた。</p>					
	課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>立地の関係上、児童生徒だけで通所することが難しく、保護者の協力が得られない場合、通所ににくい。通所している児童生徒は、それぞれその特性に応じた支援を必要としており、児童生徒の状況の見極めや適切な支援の在り方を検討する必要がある。また、家庭環境が複雑であったり、身体的な問題等を抱えていたりする児童生徒が増えてきており、医療や福祉との連携も必要である。これらの対応を行うことに加え、ほっとスペースに通ってきている児童生徒の限られた時間の中で、学校との有効な連携を進めることが重要である。</p>				
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>環境整備を整え、一人一人に適した支援を継続する。</p>					

個別事業名	(4) 奨学資金貸付・給付事業																																																																	
担当課等	学校教育課 庶務係																																																																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																																												
	R 3	17, 520			17, 520																																																													
	R 4	18, 432			18, 432																																																													
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>有用な人材の育成を図るため、成績優秀であるが家計等の経済的理由から学資の支弁が困難な学生及び生徒に対し、奨学資金の貸付又は給付を行う。</p> <p>【事業概要】</p> <div><div>1 貸付</div><div>*対象：大学生等</div><div>*年額：240, 000円、480, 000円、720, 000円から選択</div><div>*期間：採択年度から卒業まで</div><div>2 給付</div><div>*対象：高校生等</div><div>*年額：204, 000円</div><div>令和3年度まで120, 000円</div><div>*期間：採択年度から卒業まで</div></div> <div><出願要件></div> <div>・黒部市民（就学のための市外在住可）</div> <div>・学資の支弁が困難と認められる者</div> <div>・学業優秀、品行方正、健康であること</div>																																																																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>黒部市奨学資金規則に基づき、黒部市奨学生審査委員会において、厳正かつ公正な審査を実施した。</p> <div>1 貸付事業</div> <table><tr><td>年度</td><td>H30</td><td>R 元</td><td>R 2</td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr><tr><td>採択枠</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>16(4)</td></tr><tr><td>申請</td><td>14</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>6 (1)</td></tr><tr><td>採択</td><td>12</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td><td>6 (1)</td></tr><tr><td>不採択</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table> <p>() 内は医療介護職の人材確保にかかる奨学資金貸付 (内数)</p> <div>2 給付事業</div> <table><tr><td>年度</td><td>H30</td><td>R 元</td><td>R 2</td><td>R 3</td><td>R 4</td></tr><tr><td>採択枠</td><td>8</td><td>15</td><td>28</td><td>20</td><td>18</td></tr><tr><td>申請者</td><td>13</td><td>16</td><td>14</td><td>7</td><td>13</td></tr><tr><td>採択者</td><td>9</td><td>12</td><td>14</td><td>7</td><td>8</td></tr><tr><td>不採択</td><td>4</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td></tr></table>						年度	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	採択枠	12	12	12	12	16(4)	申請	14	9	9	6	6 (1)	採択	12	9	9	6	6 (1)	不採択	2	0	0	0	0	年度	H30	R 元	R 2	R 3	R 4	採択枠	8	15	28	20	18	申請者	13	16	14	7	13	採択者	9	12	14	7	8	不採択	4	4	0	0	5
	年度	H30	R 元	R 2	R 3	R 4																																																												
	採択枠	12	12	12	12	16(4)																																																												
申請	14	9	9	6	6 (1)																																																													
採択	12	9	9	6	6 (1)																																																													
不採択	2	0	0	0	0																																																													
年度	H30	R 元	R 2	R 3	R 4																																																													
採択枠	8	15	28	20	18																																																													
申請者	13	16	14	7	13																																																													
採択者	9	12	14	7	8																																																													
不採択	4	4	0	0	5																																																													
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																																																														
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>令和4年度から新たに医療介護職の人材確保にかかる奨学資金貸付を設け、医療介護教育を受けている学生に対しては世帯収入や学業成績によらず、貸付できることとした。このほか、従来の貸付及び給付の申請については、世帯収入、家族構成、学業成績を総合的に勘案し、厳正かつ公正な審査を実施した。また、貸付金の返還については、滞りなく行われた。(R 4年度返済者 99人：17, 712千円)</p>																																																																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>貸付事業については申請が減少傾向にあり、要因の一つとして国や民間での奨学金制度が充実してきていることが考えられる。また、給付事業については、奨学という側面よりも困窮世帯支援という側面が強くなっている。今後、市教育委員会として、こういった制度運営が適切か改めて検討する必要がある。</p>																																																																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>継続していくが、今後、こういった制度運営が適切か改めて検討する必要がある。</p>																																																																	

個別事業名	(5) 就学援助事業							
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班							
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源		
	R 3	27,830	1,190		3,926	22,714		
	R 4	32,001	1,325		3,380	27,296		
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 経済的事情によって小学校及び中学校への就学に困難を有する児童生徒や特別支援を要する児童生徒の保護者に対し、就学に必要な援助を行う。							
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)							
	<小学校：児童数 (1,930 人) 年度末>							
	年度	要保護	準要保護	特別支援	援助費(千円)	日スポ等(千円)	給食費助成金等(千円)	事業費計(千円)
	R 3	1 人	94 人	57 人	8,751	3,534	4,728	17,013
	R 4	0 人	97 人	53 人	10,293	3,155	4,469	17,917
		対象者合計 152 人 (7.7%)						
	※準要保護人数はこの他、就学予定者 R 3 で 14 人、R 4 で 7 人あり (金額は援助費欄に含む)。							
	<中学校：生徒数 (1,084 人) 年度末>							
	年度	要保護	準要保護	特別支援	援助費(千円)	日スポ等(千円)	給食費助成金等(千円)	事業費計(千円)
	R 3	1 人	76 人	11 人	8,432	2,385	-	10,817
R 4	1 人	85 人	9 人	11,907	2,177	-	14,084	
	対象者合計 95 人 (8.8%)							
就学に要する経費 (学校給食費・学用品費・通学用品費・校外活動費・修学旅行費・新入学児童生徒学用品費・通学費・交流学习交通費等) の一部援助、日本スポーツ振興センター災害共済給付制度の掛け金の一部補助、第3子の給食費の一部助成を実施した。 なお、平成29年度より入学前の就学予定者に対しても学用品費等を助成している。								
点 検 ・ 評 価	総合評価 A (前年評価 A)				5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) こども支援課や各学校と連携を図り、年度途中の児童扶養手当受給対象者や転入・転出・転居等、各種支援の該当者の情報共有による確実な把握に努め、適切な対応を行った。							
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) 真に必要としている方が援助を受けることができるよう、引き続き制度の周知について改善を検討する必要がある。							
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き事業を継続する。							

個別事業名	(6) 幼稚園教育の充実																																					
担 当 課 等	こども支援課 保育所・幼稚園係																																					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																																
	R 3	8,526	1,053	1,010	73	6,390																																
	R 4	7,874	735	733	75	6,331																																
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 幼児期にふさわしい遊びや生活を通して「多様な体験を通じた豊かな感性の育成」や「日常生活の中で喜んで話す、聞くなどの態度や基本的生活習慣の育成」といった教育目標の達成を目指す。																																					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) <div>(園児数は年度末)</div> <table><tr><td></td><td>R 3</td><td>R 4</td><td>増 減</td></tr><tr><td>幼稚園数</td><td>1 園</td><td>1 園</td><td>—</td></tr><tr><td>学 級 数</td><td>3 級</td><td>3 級</td><td>—</td></tr><tr><td>園 児 数</td><td>38 人</td><td>36 人</td><td>△ 2 人</td></tr><tr><td>決 算 額</td><td>8,526 千円</td><td>7,874 千円</td><td>△652 千円</td></tr><tr><td>うち管理費</td><td>6,501 千円</td><td>6,711 千円</td><td>210 千円</td></tr><tr><td>うち就学援助費</td><td>1,570 千円</td><td>763 千円</td><td>△877 千円</td></tr><tr><td>新型コロナウイルス感染症対策費</td><td>455 千円</td><td>400 千円</td><td>△55 千円</td></tr></table>							R 3	R 4	増 減	幼稚園数	1 園	1 園	—	学 級 数	3 級	3 級	—	園 児 数	38 人	36 人	△ 2 人	決 算 額	8,526 千円	7,874 千円	△652 千円	うち管理費	6,501 千円	6,711 千円	210 千円	うち就学援助費	1,570 千円	763 千円	△877 千円	新型コロナウイルス感染症対策費	455 千円	400 千円	△55 千円
		R 3	R 4	増 減																																		
	幼稚園数	1 園	1 園	—																																		
	学 級 数	3 級	3 級	—																																		
園 児 数	38 人	36 人	△ 2 人																																			
決 算 額	8,526 千円	7,874 千円	△652 千円																																			
うち管理費	6,501 千円	6,711 千円	210 千円																																			
うち就学援助費	1,570 千円	763 千円	△877 千円																																			
新型コロナウイルス感染症対策費	455 千円	400 千円	△55 千円																																			
	[幼稚園長期休園日預かり保育] 長期休暇中における預かり保育の実施 (R 4 年度) <table><tr><td>時 期</td><td>申込人数(人)</td><td>利用日数</td><td>平均利用日数(日)</td></tr><tr><td>夏 季</td><td>8</td><td>25</td><td>3.125</td></tr><tr><td>冬 季</td><td>1</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>学年末</td><td>5</td><td>15</td><td>3</td></tr><tr><td>計</td><td>14</td><td>44</td><td>3.14</td></tr></table>						時 期	申込人数(人)	利用日数	平均利用日数(日)	夏 季	8	25	3.125	冬 季	1	4	4	学年末	5	15	3	計	14	44	3.14												
時 期	申込人数(人)	利用日数	平均利用日数(日)																																			
夏 季	8	25	3.125																																			
冬 季	1	4	4																																			
学年末	5	15	3																																			
計	14	44	3.14																																			
点検・評価	総合評価 B (前年評価 B)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																																			
	(上記の評価をした理由) 安心、安全、信頼のおける幼稚園運営を目標とし、幼稚園教育要領に基づき幼稚園教育に取り組んだ。保護者は、恵まれた施設、環境にある幼稚園に、学校教育の前段階として質の高い教育を期待して就園させていると考えられる。 安全面に十分配慮し、主体的に遊ぶ環境整備や援助方法を工夫し、友達と一緒に遊ぶこと、生活のリズムを整えること、必要な生活習慣や態度を身に付けるとともに、新型コロナウイルス感染症予防を含めた健康な体づくりを重点として取り組んだ。コロナ禍での行事開催を工夫し、実施に向けて準備を進めたが、感染拡大等のため、地域の人々との触れ合い活動が中止となった。 なお、教育時間外や長期休暇中の預かり保育の運用は、就労に関わらず、保護者が必要とする場合にに応じて実施した。																																					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 市内唯一の単独幼稚園として、市内各地区から就園している。核家族の増加、県外からの移住、アパート住まい等による、近所付き合いや地域との関わり等において希薄化している傾向がみられる。幼稚園が拠り所となって地域や保護者同士との関係を構築していくことが必要である。 コロナ禍であっても、従来の子どもの生活が保障できるように、感染症対策を講じた開催方法の工夫を行い、幼児、保護者、地域関係者等が触れ合える活動を増やしていく。 単独幼稚園の特徴を活かしながら、幼稚園教育の充実を図り、幼児の心身発達の助長に資する未就園児親子交流や子育て支援拠点としての役割について、周知していくことが大切である。 在籍園児数は減少傾向にあるため、異年齢交流活動を活発に取り入れ、人と関わる力を育てていく必要がある。																																					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 家庭・小学校との連携を図り、円滑な幼稚園の運営を継続するとともに、入園児童数の動向を注視する。																																					

施策の分野	②確かな学力
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫と改善を推進する。 ・「確かな学力」を身に付けさせるため、各教科や特別活動、総合的な学習の時間において、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力及び主体的に学習に取り組む態度の育成を図るとともに、個に応じた指導の充実に努める。 ・授業と家庭学習の内容を連動させながら、課題の与え方を工夫し、学習習慣の確立に努める。 ・論理的に思考して表現する能力や、互いの考えや立場を尊重し、他者に配慮した伝え合う能力を育成するために、各教科等における言語活動を充実する。 ・学習のねらいと学習課題、学習活動、評価規準の整合性を図る。その上で、学習課題の設定、書いて考える活動、考えを言葉で伝え合う活動、学習の成果の確認・評価を工夫し、「分かる」「できる」授業を推進する。 ・集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと一人一人が抱える課題に個別に対応するカウンセリングの双方からの指導を充実する。 ・学習課題に対して指示された条件を満たして解決していこうとする意欲や能力面を意識した指導を充実する。 ・教職員と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の人間関係づくり、自己選択や自己決定を促すといった生徒指導の機能を生かす。 ・鉛筆の持ち方やノートの使い方、返事、発言の仕方、聞き方、話合いの仕方、姿勢等の態度面を意識した学習規律の確立に努める。

個別事業名	(1) 全国学力・学習状況調査					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班、教育センター					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 【全国学力・学習状況調査の分析】 小学6年生と中学3年生の児童生徒を対象に、学力と学習状況を把握・分析し、改善を図ることを目的に黒部市として実施した。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 市内の全小中学校(11校)が参加した。調査結果は、黒部市教育センターにおいて分析し、12月に各校に配付した。小中学校では、この分析結果を参考にしながら授業改善に努めるとともに、児童生徒に個人結果を手渡し、保護者へは、学校だより等で周知するなど今後の学習に活かすようにした。 平均正答率については小学校国語及び算数で全国平均正答率を下回ったが、小学校理科及び中学校国語、数学、理科で全国平均正答率を上回った。富山県平均と比較すると、小学校は3教科とも下回っているが中学校は3教科とも上回っている。結果の分析では、「設問別正答率の学校間の開き」「事例分析」等を示し、小中学校が学力向上に向けた取組をする際に参考となるデータを提供した。					
点 検 ・ 評 価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 質問調査については、学校ごとのデータを市内の集計結果と合わせて送付し、各学校における分析に活用できるようにしたことで、基本的な生活習慣や家庭学習の定着について、学校ごとに具体的に保護者に呼びかけることができた。					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) 今後も、適切にデータを処理しグラフ化するなど、分かりやすい提示をもとに、学力・学習状況を把握していく必要がある。 実態把握をもとに授業改善、指導力向上に取り組んでいく。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 調査結果を活かし、改善を図りながら継続する。					

個別事業名	(2) 教職員研修・研究委員会・研究指定校																			
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班、教育センター																			
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源														
	R 3	304		304																
	R 4	558		558																
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>【教職員研修】 児童生徒の確かな学力や豊かな人間性、健康・体力を育むために、各種の教職員研修会を実施し、教職員の資質・能力・指導力の向上を図る。</p> <p>【研究委員会】 社会科・外国語教育・情報教育における教材等の作成や見直し、今日的な課題に関する研修を行う。</p> <p>【令和のとやま型教育推進事業】 生地小、たかせ小、石田小、村椿小、清明中を推進校として、基礎的読解力・数学的思考力・情報活用能力の育成を中心とした学力向上に関する研究を推進するとともに、得られた成果の市内各校への普及に努める。</p>																			
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>「教員のニーズに応じた研修会」「明日に生きる研修会」となるよう、黒部市教育センターが中心となり以下の研修会等の企画・運営に努めた。</p> <p>① 教職員研修 〈研修会・講演会〉(参加人数：延べ375人)</p> <table><tr><td>・学級経営研修会(初任者)2回(16人)</td><td>・教科実技研修会(理科)(5人)</td></tr><tr><td>・特別支援教育研修会(36人)</td><td>・情報教育研修会(11人)</td></tr><tr><td>・生徒指導主事等研修会 3回(52人)</td><td>・いじめ問題等研修会 2回 (22人)</td></tr><tr><td>・i-check研修会 (22人)</td><td>・学力向上研修会 (中止)</td></tr><tr><td>・生徒指導講演会(47人)</td><td>・郷土を学ぶ研修会 (10人)</td></tr><tr><td>・学級経営に関する講演会(28人)</td><td>・外国語教育研修会 (24人)</td></tr><tr><td>・道徳に関する講演会(42人)</td><td></td></tr></table> <p>② 研究委員会</p> <p>○外国語教育研究部会 (小中学校教諭13人 2回開催)</p> <p>・年間指導計画の見直し、評価問題の収集、英語の指導の在り方についての情報交換を行った。</p> <p>○社会科研究委員会 (小学校教諭9人、2回開催)</p> <p>・小学3年・4年の社会科で学ぶ身近な地域や市(県)の社会的な事象についての理解を深め、地域社会に対する誇りと愛情を育てるための学習資料を作成した。</p> <p>○情報教育研究委員会 (小学校教諭9人・中学校教諭2人、1回開催)</p> <p>・1人1台端末の活用事例、授業支援ソフトを活用した授業の在り方、デジタル教科書の活用方法の把握を行い情報交換することで、利活用の促進を図った。</p> <p>③ 令和のとやま型教育推進事業</p> <p>推進校は、研究テーマに基づき学力向上について実践的な研究に取り組み、事業・研修の公開を積極的に行った。研究に沿った講演会も行った。</p>						・学級経営研修会(初任者)2回(16人)	・教科実技研修会(理科)(5人)	・特別支援教育研修会(36人)	・情報教育研修会(11人)	・生徒指導主事等研修会 3回(52人)	・いじめ問題等研修会 2回 (22人)	・i-check研修会 (22人)	・学力向上研修会 (中止)	・生徒指導講演会(47人)	・郷土を学ぶ研修会 (10人)	・学級経営に関する講演会(28人)	・外国語教育研修会 (24人)	・道徳に関する講演会(42人)	
・学級経営研修会(初任者)2回(16人)	・教科実技研修会(理科)(5人)																			
・特別支援教育研修会(36人)	・情報教育研修会(11人)																			
・生徒指導主事等研修会 3回(52人)	・いじめ問題等研修会 2回 (22人)																			
・i-check研修会 (22人)	・学力向上研修会 (中止)																			
・生徒指導講演会(47人)	・郷土を学ぶ研修会 (10人)																			
・学級経営に関する講演会(28人)	・外国語教育研修会 (24人)																			
・道徳に関する講演会(42人)																				
点 検 ・ 評 価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大を考慮し、講演会等開催を見合わせた研修会が多かった。</p> <p>教育センターで実施する研修会においては、各校における課題や悩み等の把握に努め、教員が求めるニーズに応じた研修会となるように、少人数での実施等を工夫した。</p>																			
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>新規の研修会を開催する場合は、教員の負担増となることのないよう配慮し、他の研修会を減らすなどの見直しを継続していく。必要とされる内容等を十分に精査して、研修会、講演会を実施する必要がある。</p>																			
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>各種研修会の精選化を図りながら継続する。</p>																			

個別事業名	(3) 学校訪問																	
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班、教育センター																	
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 3	0																
	R 4	0																
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>学校訪問研修は、各学校(園)の教育目標実現のため、国(文部科学省)・富山県教育委員会・黒部市教育委員会の指導方針に則し、学校(園)運営・教育指導及び研修に関して指導・助言を行い、当面する課題を中心に解明を図り、教育実践の効果を高めることを目的とする。</p> <p>学習指導要領の趣旨を踏まえながら、県教育委員会の教育指標「一人一人を見つめ、育てる」の具現化を目指し、教育指導と校内研修が一層充実するように指導・助言する。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【学校訪問研修】</p> <p>・通常訪問(9小学校、1幼稚園、2中学校)を行った。黒部市教育委員会からは、教育長、教育部長、学校教育課長、学校教育班長、黒部市教育センター所長及び指導主事、可能な限り教育委員も授業を参観し、指導・助言にあたった。</p> <p style="text-align: center;">＜学校訪問研修での参観授業数()内は学級数＞</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td></td> <td>小学校</td> <td>中学校</td> <td>合計</td> </tr> <tr> <td>R 3</td> <td>104 (97)</td> <td>49 (35)</td> <td>153 (132)</td> </tr> <tr> <td>R 4</td> <td>98 (94)</td> <td>50 (36)</td> <td>148 (130)</td> </tr> </table> <p>【学校巡回訪問】</p> <p>1・2学期に例年と同様に、通常訪問研修を実施しない学校のみを対象として、市教委・市教セによる学校訪問を実施した。若手教員にとって、1学期と2学期に継続した懇談の機会があり、効果的な指導に繋がった。</p>							小学校	中学校	合計	R 3	104 (97)	49 (35)	153 (132)	R 4	98 (94)	50 (36)	148 (130)
	小学校	中学校	合計															
R 3	104 (97)	49 (35)	153 (132)															
R 4	98 (94)	50 (36)	148 (130)															
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載													
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>学校訪問研修では、学校の実態や課題等を聴取するとともに、授業を参観することを通して、学校の課題改善のための指導・助言を行うことができた。</p> <p>市教委・市教セによる学校訪問研修では、若手教員の授業のよかった点を認め、励ますとともに、具体的な改善点を挙げて指導・助言することで、学級経営や教科指導等に関する課題の解決に繋げることができた。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>通常訪問は、目的に応じて研修日程や研修内容を学校が主体となって決定している。市教委・市教セによる学校訪問についても、各校、各教員の課題に応じて実施できるよう、事前の相談や打ち合わせを丁寧に行っていく必要がある。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ継続する。</p>																	

個別事業名	(4) 情報教育					
担当課等	学校教育課 施設係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	47,626	1,980			45,646
	R 4	65,083	2,970			62,113
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 児童生徒が、適切に I C T (情報通信技術) を活用し、一人一人の能力特性に応じた個別学習や児童生徒間で学習に必要な情報を相互作用的に用いる協働学習ができるよう情報教育をすすめる。 情報教育の一層の充実、改善を図るため、情報教育機器システムのハード、ソフト両面及びインターネットに係る基盤等の整備を行う。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	1 児童生徒用パソコンの整備状況 (パソコン1台当たりの児童生徒数)					
	年度	パソコン台数	児童生徒数	黒部市	全国平均	国の目標値
	R 3	3,147 台	3,104 人	1.0 人/台	0.9 人/台	1 人/台※
	R 4	3,147 台	3,015 人	1.0 人/台		
	※児童生徒数は、各年5月1日現在 (全国平均は、R4.3.1《令和3年度》現在) ※国は、児童・生徒1人1台の整備を目指している。					
	2 教職員用校務パソコンの整備状況 (充足率)					
	年度	パソコン台数	教員数	黒部市	全国平均	国の目標値
	R 3	317 台	285 人	111.2%	125.4%	100%
	R 4	311 台	248 人	125.4%		
※教員数は、各年5月1日現在 (全国平均は、R4.3.1《令和3年度》現在)						
3 端末を効果的に活用するための体制づくり ・授業支援ソフトを導入 ・G I G Aスクール運営支援センターを設置 ・I C T支援員 (4人) を各学校に配置 ・デジタル教科書の試行導入 ・光回線の改良事業を実施						
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 児童生徒用パソコン及び教職員用校務パソコンの整備率は、国の目標値を達成している。学校の光回線改良事業を実施する等、端末を効果的に活用するための体制づくりを進めることができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 児童生徒1人1台端末が整備されたところであるが、今後は、更なる授業での活用や家庭への持ち帰り、活用時の情報モラル教育等をすすめていく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 端末を授業で十分に活用するための授業支援ソフトの活用、端末運用を手助けする I C T支援員の配置、端末故障等に対応するヘルプデスク、教職員等の利活用研修、児童生徒への情報モラル教育、端末を快適に動作させるためネットワーク環境の点検等を継続して実施する。 また、デジタル教科書や教材アプリなど様々な学習ツールを効果的・効率的に活用するため、学習 e ポータルの選定を進める必要がある。 【今後の予定】 ＜令和5年度＞ ・学習 e ポータルの選定					

施策の分野	③国際化教育
方針・目標	<p>・英語による総合的なコミュニケーション能力を育成するため、英会話を楽しみながら相手を理解し、自分を表現する「英会話科」と日常的な英語活動の充実に一層努める。</p> <p>・海外姉妹都市との連携事業や英語サマーキャンプ等、魅力的で実践的な教育プログラムを充実することにより、児童生徒の英語に対する学習意欲の向上を図る。</p> <p>・日本や郷土の文化・伝統を尊重するとともに、様々な文化をもつ人々と共生する態度や資質を育てるため、地域ぐるみで国際化教育、帰国児童生徒・外国人児童生徒教育を推進する。</p>

個別事業名	(1) 英会話科の実施																	
担当課等	学校教育課 庶務係																	
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 3	51, 275			100	51, 175												
	R 4	56, 853			100	56, 753												
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>国際感覚と実践的なコミュニケーション能力を身に付け、地域社会や国際社会に貢献できる子どもの育成を目指し、小中学校の児童生徒に英会話科授業を実施する。その方策として、文部科学省による教育課程特例校（英会話科）の指定を受け、小学校では、ALT（外国語指導助手）・担任・JAT（小学校英会話講師）、中学校では、ALT・JET（中学校英会話講師）で指導している。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>【人員体制】 ALT・7人 JAT・6人 JET・2人</p> <p>英会話科授業には、平成18年度から特区、平成21年度からは特例校として、取り組んできており、令和4年度、小学1・2年は英会話として10時間、小学3・4年は外国語活動として35時間、小学5・6年は外国語科として70時間、中学校は特例校の指定を継続し、英会話科として、中学1・2年は25時間、中学3年は35時間、ネイティブスピーカー（ALT）がなるべく参加し、授業を行った。また令和4年度は10月28日から約1か月間、英会話科の授業公開を実施した。</p> <p>英会話科では担任以外にALTやJAT、JETと複数の指導者がいることで、児童生徒と一対一の直接会話の場面を多く取ることができている。</p> <p>児童生徒の英会話科に対する意識調査では、「英語の勉強は好きだ」という設問に対し、肯定的な回答の割合が、小学校1年生で92.1%である。この割合は学年が上がるほど、低くなる傾向にはあるが、中学校3年生においても76.3%が肯定的な回答をしており、児童生徒はコミュニケーション活動等を通じ全体的に楽しみながら学習している。</p> <p>このほか、英語検定の取得率については、5.4ポイント上昇し38.6%となった。</p>																	
	<p>中学生の英語検定3級以上の取得率</p> <table><tr><th>年度</th><th>黒部市（12月末）</th><th>目標</th></tr><tr><td>R元</td><td>39.6%</td><td rowspan="4">50.0%</td></tr><tr><td>R 2</td><td>37.9%</td></tr><tr><td>R 3</td><td>33.2%</td></tr><tr><td>R 4</td><td>38.6%</td></tr></table>						年度	黒部市（12月末）	目標	R元	39.6%	50.0%	R 2	37.9%	R 3	33.2%	R 4	38.6%
	年度	黒部市（12月末）	目標															
	R元	39.6%	50.0%															
	R 2	37.9%																
R 3	33.2%																	
R 4	38.6%																	
点検・評価	総合評価 A（前年評価 B）		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>学校からは児童生徒がALTと会話形式の学習ができるのは生徒にとって良くありがたい等の意見が聞かれ、引き続き中学校において特例校として英会話科を実施していくことを確認したほか、3年ぶりに英会話科の公開授業を行い、保護者等にその取組や成果について周知することができた。児童生徒の英会話科に対する意識調査では、「英会話科の授業が好きだ」という項目に対し、肯定的な回答が多く、英会話に対する興味や意識の高揚につながっている。また、英語検定の取得率については38.6%となり5.4ポイント上昇した。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>小学校の英会話科等の授業では担任等が主体であるが、多忙化から補助的役割であるJAT、JETに比重がかかることがある。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>引き続き、国際化教育の推進に向け、英会話科授業のあり方等について検討していく。</p>																	

個別事業名	(2) 英語サマーキャンプ																																			
担 当 課 等	学校教育課 庶務係																																			
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																														
	R 3	0																																		
	R 4	184				184																														
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>夏休みを利用し、A L T (外国語指導助手) と小学5・6年生、中学1年生による2泊3日の英語合宿を行う。</p> <p>共同生活をしながら、ワークショップ、スポーツ、キャンプファイヤー、バーベキューなど、英会話を交えた活動を通じ、英語や外国文化に親しみ、楽しみながら英語コミュニケーション能力の向上・強化を目指す。(会場：黒部市ふれあい交流館)</p> <p>毎回、希望者を募り実施する。(定員50人程度・参加者負担金5,000円／人)</p>																																			
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>1 参加者 (人)</p> <table><tr><td>区分</td><td>小学生</td><td>中学生</td><td>小中計</td><td>A L T</td><td>英会話講師</td></tr><tr><td>R 元</td><td>37</td><td>21</td><td>58</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>R 2</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>R 3</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>R 4</td><td>9</td><td>11</td><td>20</td><td>7</td><td>6</td></tr></table>						区分	小学生	中学生	小中計	A L T	英会話講師	R 元	37	21	58	7	7	R 2	—	—	—	—	—	R 3	—	—	—	—	—	R 4	9	11	20	7	6
	区分	小学生	中学生	小中計	A L T	英会話講師																														
	R 元	37	21	58	7	7																														
	R 2	—	—	—	—	—																														
	R 3	—	—	—	—	—																														
	R 4	9	11	20	7	6																														
	2 実施期間 令和4年8月24日(水)～8月26日(金)																																			
	3 主な活動																																			
	①ティームタイム (最終日の英語劇発表に向け班ごとに劇の練習[全7回])																																			
	②パフォーマンス (A L Tと英会話講師による児童生徒参加型のクイズ等)																																			
③スポーツタイム (A L Tとダンス等)																																				
④英語ワークショップ (A L Tと英語を使いながら工作)																																				
⑤バーベキュー (異国の料理を調理)																																				
⑥キャンプファイヤー (英語を使ったアメリカ式のキャンプファイヤー)																																				
⑦プレゼンテーション (キャンプの集大成として英語による寸劇を披露)																																				
点検・評価	総合評価 A (前年評価 C)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																																
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>新型コロナウイルス感染症のため3年ぶりの実施となった。参加者は20人と少なかったものの、その分、参加児童生徒がコミュニケーションを多くとることができて中身の濃いキャンプとなった。事後のアンケートでは全員が英語を自ら進んで話す機会があったとしており、A L Tたちと一緒に生活をしながら、様々な活動を通じて、英語に親しみ、英語を学ぶことやコミュニケーションをとることの楽しさを実感させることができた。</p>																																			
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>令和4年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響もあり打合せの時間が取れなかった。キャンプの内容については、A L T等と十分検討しておく必要がある。</p>																																			
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>2泊3日の共同生活を通じ、日常英会話に繰り返し接することにより、英会話を身近に感じ、身に付けるよい機会となっている。児童生徒にとっても、夏休みにおける貴重な体験事業として定着しており、今後も内容の改善、発展に取り組みながら、引き続き実施する。</p>																																			

個別事業名	(3) 姉妹都市交流研修事業																	
担 当 課 等	学校教育課 庶務係																	
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 3	0																
	R 4	4,345				4,345												
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 姉妹都市のアメリカ（メーコン・ビブ郡）及びオランダ（スドウェスト・フリースラン市）との間で、生徒等の派遣及び受入を実施し、ホームステイ、学校訪問、交流活動、現地見学などを通じて、実践的な英語コミュニケーションの機会を得、外国文化に対する興味と理解を高める。																	
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ＜研修概要＞ ・期 間 11月4日(金)～11日(金) ・研修地 アメリカ合衆国ジョージア州メーコン・ビブ郡 ・内 容 ホームステイ（5泊）、学校訪問（3日間）、メーコン・ビブ郡市長表敬訪問など ・主催等 主催：黒部国際化教育推進協議会、共催：黒部市、黒部市教育委員会 ＜研修参加者＞ ・研修生 市内2中学校から3年生各4人、2年生各4人、計16人（校長推薦） ・引率者 市教育委員会から3人 現地でのホームステイや学校生活を通し交流を深めたほか、メーコン・ビブ郡の市長及び教育長への親書交付、昼食会、YKK現地工場や博物館等の見学も行いコミュニケーション能力の習得と国際理解につながった。 ＜交流研修実績（生徒数）＞ <table><tr><td>年度</td><td>派遣</td><td>受入</td></tr><tr><td>R 2</td><td>中止（メーコン・ビブ郡）</td><td>未実施（スドウェスト・フリースラン市）</td></tr><tr><td>R 3</td><td>中止（メーコン・ビブ郡）</td><td>未実施（スドウェスト・フリースラン市）</td></tr><tr><td>R 4</td><td>メーコン・ビブ郡（16人）</td><td>未実施（スドウェスト・フリースラン市）</td></tr></table>						年度	派遣	受入	R 2	中止（メーコン・ビブ郡）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）	R 3	中止（メーコン・ビブ郡）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）	R 4	メーコン・ビブ郡（16人）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）
	年度	派遣	受入															
	R 2	中止（メーコン・ビブ郡）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）															
	R 3	中止（メーコン・ビブ郡）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）															
R 4	メーコン・ビブ郡（16人）	未実施（スドウェスト・フリースラン市）																
点検・評価	総合評価 A（前年評価 C）		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載															
	（上記の評価をした理由） 新型コロナウイルス感染症の影響から渡航にあたり、準備する書類等が多く、生徒及び保護者には負担をかけたところであるが、現地での文化交流会では日本文化や黒部市の紹介を行い、またホームステイを実施することにより友好を深めることができた。																	
課題・改善	（具体的な改善内容を記載） メーコン・ビブ郡との交流事業の再開に向けて、受入先の担当者等と緊密に連携し、調整を図っていく必要がある。 海外姉妹都市のうち、スドウェスト・フリースラン市（オランダ）との派遣交流が、先方の事情により途絶えており、市姉妹都市交流担当課と連携しながら、インターネットの活用を含め交流再開を模索していく必要がある。																	
今後の方向	（継続・拡充・縮小・廃止などを判断） 黒部国際化教育の成果を実践的に発揮できる事業であり継続していく。																	

個別事業名	(4) 帰国児童生徒・外国人児童生徒教育																											
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班																											
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																						
	R 3	2,715			1,100	1,615																						
	R 4	2,708			1,100	1,608																						
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>帰国児童生徒及び外国人児童生徒が、日本の学校生活、生活様式に適応できるように支援する。帰国児童生徒に対しては、一人一人に応じた学習指導を、外国人児童生徒に対しては、日本語指導を中心に行う。</p> <p>帰国児童生徒教育研究会に補助金を交付し、研究活動を促進する。</p>																											
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>学校生活や生活様式における困りごとや悩みごとについて、個別に話を聞くなど、生活改善に努めてきた。また、一人一人の能力に応じた、個別指導(教室外)《指導書では「入り込み指導」「取り出し指導」と表記》を行うことにより、苦手教科の克服や日本語理解につながり、意欲的に学習に臨むなど、少しずつ学校生活に馴染めるようになった。</p> <p>〈在籍状況〉</p> <p>R 4 帰国児童生徒数</p> <table><tr><td>区 分</td><td>人数</td><td>内 訳</td><td>計</td></tr><tr><td>帰国後3年未満</td><td>12 人</td><td>小学生 5 人、中学生 7 人</td><td rowspan="2">42 人</td></tr><tr><td>帰国後3年以上</td><td>30 人</td><td>小学生 12 人、中学生 18 人</td></tr></table> <p>R 4 外国人児童生徒数</p> <table><tr><td>区 分</td><td>人数</td><td>内訳(保護者国籍)</td><td>計</td></tr><tr><td>小学校</td><td>12 人</td><td>ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン4人、中国4人、中国・台湾1人、</td><td rowspan="2">17 人</td></tr><tr><td>中学校</td><td>5 人</td><td>ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、中国・台湾1人</td></tr></table> <p>〈主な取組事例〉</p> <ul style="list-style-type: none">・サマースクール・個別指導《入り込み指導 403 回(中央小2人、たかせ小1人)、取り出し指導なし》・保護者会の実施(学校生活等の相談) 2 回 (1 回目 大人3人、2 回目 大人7人、児童生徒8人)・帰国児童生徒教育研究会による会報「A c c e s s」発行(年2回)・外国の文化や生活についての掲示物の貸し出し						区 分	人数	内 訳	計	帰国後3年未満	12 人	小学生 5 人、中学生 7 人	42 人	帰国後3年以上	30 人	小学生 12 人、中学生 18 人	区 分	人数	内訳(保護者国籍)	計	小学校	12 人	ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン4人、中国4人、中国・台湾1人、	17 人	中学校	5 人	ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、中国・台湾1人
	区 分	人数	内 訳	計																								
	帰国後3年未満	12 人	小学生 5 人、中学生 7 人	42 人																								
	帰国後3年以上	30 人	小学生 12 人、中学生 18 人																									
	区 分	人数	内訳(保護者国籍)	計																								
	小学校	12 人	ブラジル1人、パラグアイ1人、ブラジル・フィリピン1人、フィリピン4人、中国4人、中国・台湾1人、	17 人																								
	中学校	5 人	ブラジル1人、ブラジル・フィリピン1人、中国1人、フィリピン1人、中国・台湾1人																									
	点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																								
		<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>個別指導(教室外)を通じた一人一人に相応しい指導により、対象の児童生徒は、学校生活に適応し、学習能力も高まった。</p> <p>保護者会では、進路や学校生活のことについて、活発に意見交流をすることができた。</p>																										
	課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>学校や学級担任との連携を図り、個々の児童生徒に応じた指導を継続する。</p> <p>個別指導や付き添い指導をしている外国人児童生徒のよさを生かしながら個別指導や付き添い指導ができるように、学習の様子や生活の状況を担任やスタディ・メイトと共有する。</p> <p>帰国・外国人児童生徒が編入した際に効果的な対応ができるように、これまでの指導事例や効果的な対応等について累積しておく必要がある。</p>																										
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>課題・改善を踏まえ、帰国・外国人児童生徒への指導等を継続する。</p>																											

施策の分野	④特別支援教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援が必要な幼児・児童・生徒に対する教育を推進するため、合理的配慮について子どもや保護者と合意形成を図るなど、支援体制の充実を図る。 ・専門機関等と連携を図りながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援を充実する。 ・学習の見通しをもたせる、分かりやすい言葉で短く話す、学習内容の理解を視覚的な支援を用いてサポートするなど、支援を必要とする子どもへの配慮は、すべての子どもに対して効果的であるという視点で、学校・学年・学級運営及び授業づくりに努める。

個別事業名	(1) 特別支援教育支援員（スタディ・メイト）事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	25, 735				25, 735
	R 4	26, 840				26, 840
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 特別な支援を必要とする児童生徒への対応として、特別支援教育支援員（スタディ・メイト）を配置し、LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、自閉症等を含む障害のある子どもの学校生活の補助、黒板の読み上げ、教員の話を読み返して聞かせるなどの学習サポート、校外活動の介助等の支援を実施する。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 支援が必要な児童生徒が、落ち着いて授業を受けたり、友達と仲よく遊んだりするなど、楽しく学校生活を過ごすことができるようになった。また、相乗効果として、学級全体が落ち着いた状態で学習に取り組むようになった。 ・配置数 小学校9校及び中学校2校に29人（前年度と同数） ・スタディ・メイト養成講座受講者（3人受講） ・市主催の研修会（6月17日開催 参加者28人）					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 児童生徒が落ち着いて授業を受け、学校生活を過ごすことができたことともに教員の負担軽減にもつながった。 市主催によるスタディ・メイト研修会を実施し、スタディ・メイトの役割や適切な支援について理解を深めた。また、他校のスタディ・メイトの状況や情報交換ができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 学校やスタディ・メイト自身から勤務時間数や配置人員が足りないとの意見があるため、適正な時間・人員配分について検討する必要があると考えられる。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 支援を要する児童生徒は増加傾向にあり、また、一人一人に応じた適切な支援が求められる。スタディ・メイトの支援が必要となる時間数や人員数について検討しつつ、事業を継続する。					

施策の分野	⑤心の教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒に「道徳的な判断力・心情・実践意欲と態度」を育てるために、道徳教育の要となる「特別の教科 道徳」(道徳科)の授業についての研修を深め「考える道徳」「議論する道徳」の授業へと質的転換を図る。 ・生命を大切にし、感動する心をもった豊かな人間性を育むため、よりよい生き方を追求する道徳教育や自然に親しむ体験活動の充実を図るなど、教育活動全体を通して「心の教育」を推進する。 ・幼児・児童・生徒の自己有用感を高める。 ・望ましい人間関係を築こうとする態度や自律心の育成を図る。 ・最後までやり遂げようとする心と態度の育成を図る。 ・いじめや暴力行為、非行等の問題行動や不登校児童生徒を生まない、見逃さない環境(人的・物的)づくりと教育相談体制の整備・拡充に努める。 ・児童生徒及び教職員の「自分も相手も大切にする」という人権意識の高揚に取り組む。 ・児童生徒を複数の視点で見守り、「心」のサインや小さな変化を見逃さないようにする。 ・情報の共有と行動の一元化に向けてケース会議や学校いじめ対策組織による対策会議を計画的に開催し、チームによる支援を充実する。

個別事業名	(1) 豊かな体験活動推進事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	2,560				2,560
	R 4	2,523				2,523
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 生命を大切にし、自然に親しむ教育や体験学習の充実を図り、豊かな感性と人間性を育む。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 市内9小学校、2中学校全ての学校で実施。(※児童生徒数等により予算配分) [小学校] 野菜作り及び学校田での田植えや稲刈り体験を通し、農業の楽しさや大変さ、収穫の喜びを味わった。学校花壇に花苗を植え、協力して世話をすることで、植物を大切に育てる心を養った。地域の住民を講師として招いて、クラブ活動、運動体験及び昔遊びなどを教わり交流できた。地域の清掃活動や、伝統行事である祭りへの参加を通し、郷土文化を学び、地域の中で育ち、地域の一員であることや地域活力の大切さなどについて学んだ。 [中学校] 黒部市の魅力を調べ、よりよい未来を築くためにできることを、文献、インターネット及び聞き取りによりまとめた。北方領土に関する学習や活動に参加して、生活・文化・自然等を学習し、黒部との縁や歴史について理解を深めた。 また、ボランティア活動や合唱コンクールでのステージ発表など、幅広い分野での活動を展開した。					
点検・評価	総合評価 A A (前年評価 A A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 様々な活動を通じて、自ら学ぶ力、生きる力を身に付けることができた。 また、インターネットを活用して調べ学習を進めることで幅広いテーマについて調べ、自分なりの考えを深めることができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 学校、家庭、地域社会が密に連携し、活動を推進できる協力体制づくりを進め、児童生徒が自然体でたくましく育つ環境をつくっていく必要がある。 また、低下傾向にある家庭、地域の教育力を高める必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 地域社会と連携を図りながら継続する。					

個別事業名	(2) いじめ不登校対策					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) いじめや不登校を生まない環境（人的・物的）づくりと教育相談体制の整備・充実に努める。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) [令和4年度のいじめの認知件数や長期欠席者の実態]					
		R 3		R 4		
		いじめ認知件数	長期欠席者数	いじめ認知件数	長期欠席者数	
	小学校	20件	27件	20 件	27件	
	中学校	7件	41件	2 件	49件	
	<いじめ対策> 各学校では、毎学期学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめ見逃し0を目指すための視点に沿って達成目標を設定し、その達成状況を自己評価しながら、いじめの防止等の取組を進めた。特に、担任等が日々の児童生徒の様子の把握に努め、教職員間の情報共有により、学校や家庭と連携を図りながら、早期の指導に努めた。さらに、市教育委員会主催のいじめ問題に係る研修会の開催や、ネットいじめやSNSによる問題行動等の事案について機会を捉えて情報提供を行うようにした。					
	<不登校対策> 毎月各学校の欠席の多い児童生徒の調査を取りまとめ、実態の把握とともに改善の手立てについて、情報交換した。当該児童生徒については、担任や学年主任、生徒指導主事を中心に、児童生徒に積極的に声をかけたり電話連絡や家庭訪問をしたりしながら、信頼関係の構築や、保護者との連携にも配慮した。また、保健室登校の児童生徒には養護教諭、学校に足が向かない児童生徒には適応指導教室等との連携を図りながら、居場所づくりに努めた。 黒部市教育センターを中心に、いじめの状況等や長期欠席者数等を分析し、校長会で各学校の取組等を検討し改善に向けて情報交換した。その他、カウンセリング指導員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関等の専門家の協力を得ながら、ケース会議や相談の場を設け、いじめや不登校の改善に向けて取組を進めた。					
点検・評価	総合評価		A（前年評価		A）	
	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載					
	(上記の評価をした理由) いじめに係るアンケートや面接等を通して、児童生徒の実態を把握し、いじめと思われる事案については、全校体制で早期に対応するよう努め、個別の指導や見守り、学年や学校全体での支援を継続することによって、いじめの解消につなげた。 不登校については、小中学校共に増加傾向で、問題が複雑化、長期化してきている。学校も保護者も対応策に苦慮しており、やや行き詰まり感がある。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 市教セで行う研修においては、県から出ている「改訂版いじめ対応ハンドブック」や「いじめ事案初期対応実践フローチャート」等を効果的に活用し、いじめの未然防止や早期発見・適切な対応をより一層努めていく。不登校対策については、学校や家庭、関係機関との連携を深めながら対応を工夫していく必要がある。また、小中学校が連携を深め、一体となって対応を進めていく。さらには、タブレットを活用し、学校と不登校児童生徒が遠隔による心のつながりを図るようにしていく。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 学校や家庭、関係機関と連携しながら充実を図っていく。					

施策の分野	⑥読書・情報教育
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな感性や創造性を育むため、幼児・児童・生徒が読書に親しむ環境の整備に努めるとともに、市立図書館とも連携しながら、「黒部市子ども読書活動推進計画」に基づいた活動を推進する。 ・情報や情報手段を適切に選択・活用する能力や情報モラルを育成するため、発達段階に応じた情報教育を推進する。

個別事業名	(1) 学校司書配置事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	6,948				6,948
	R 4	6,520				6,520
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 多くの図書に親しみ、豊かな感性や創造性を育む。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 学校司書7人を週2～5回、全小中学校に派遣し、図書の紹介、読み聞かせ、図書の整理などを学校図書館担当教諭と共に行い、児童生徒の要望に応じて、市立図書館への図書の借用申請も積極的に行った。 この他、読書に意欲的に取り組む児童生徒が増えるよう、全校一斉読書活動や朝読書の実施、地区ボランティアによる読み聞かせの会の開催など、図書に触れ合う機会を積極的に設定した。 前年度未実施であった市主催の研修会については、令和4年10月に実施した。 各学校での課題や参考となる情報提供を行うことで、他校司書の意見を聞くことができ、業務効率化等を進めることができた。					
	総合評価 B (前年評価 A) 5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載					
点検・評価	(上記の評価をした理由) 文部科学省の学校図書館整備等5か年計画では令和4年度から令和8年度までに小中学校のおおむね1.3校に1人程度の学校司書配置を掲げているが、本市においてはこの目標に到達していない。					
	(具体的な改善内容を記載) 平成26年6月に学校図書館法の一部を改正する法律が施行され、学校司書が法律に位置付けられた。人員の確保に努める必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 子どもたちの読書への関心を高めながら継続する。					

施策の分野	⑦キャリア教育
方針・目標	<p>・一人一人の児童生徒のキャリア発達を促すよう指導・支援に努め、人間関係形成能力、自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力等を育成する。</p> <p>・児童生徒一人一人が自己理解を深め、主体的に進路を選択できるよう体験的な活動を充実させ、望ましい勤労観や職業観の育成に努める。</p>

個別事業名	(1) 14歳の挑戦事業					
担当課等	学校教育課 学校教育班					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	687		343		344
	R 4	575		287		288
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>望ましい勤労観や職業観を身に付けた生徒を育てることを目的とし、市内全ての中学2年生が、5日間の職場体験活動に参加している。</p> <p>この活動を通じて、生徒の「生きる力」を育むとともに、家庭・地域の教育力の向上を図る。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>参加対象：市内2中学校2年生(参加生徒数347人、受入事業所延べ87事業所)</p> <p>実施期間：9月26日から9月30日までの5日間</p> <p>職場体験を通じて、自己肯定感の醸成、将来の目標設定につながり、健全な職業観の育成や働くことの意味を理解するなど社会性の育成に成果を挙げている。</p> <p>令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響により職場体験を2日間で行った。残り3日間は、地域の先輩をお招きして「働くこと」をテーマに講演会を実施したり、まとめ学習を行ったりした。</p> <p>自分の体験した職業だけではなく、発表会を催したり個人レポート集を作って読み合ったりしたことで、たくさんの職業に触れることができた。働く体験をしたことにより、将来の職業や進路について考える機会となった。</p>					
点検・評価	<p>総合評価 A (前年評価 B) 5段階評価：A, A, B, C, Dのいずれかを記載</p> <p>(上記の評価をした理由)</p> <p>職場体験や地域の方からの講演を聞いて、社会の一員として働くことの意義ややりがい等について意識を高めた。事業所で様々な年代の方と関わることで相手を思いやり、自ら進んで行動することの大切さを学んだ。2日間の職場体験であったが、生徒も保護者も、「14歳の挑戦」活動ができたことに感謝していた。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>受入事業所への協力要請と、受入事業所側の要望・ニーズへの対応の調整が課題である。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>市内事業者の理解度が高く、恒例の事業として定着しており、引き続き、家庭及び事業所との連携を密にしながら継続していく。</p>					

施策の分野	⑧健康・体力
方針・目標	<p>・健康で豊かな生活を送る習慣の定着を図るため、学校給食や授業での食育指導、学校保健活動を通して、心身の健康づくりを推進する。</p> <p>・運動に親しみながら体力の向上を図るため、体育科・保健体育科の時間を中心とした体育的諸活動の充実、家庭や地域と連携した取組を推進する。</p>

個別事業名	(1) 食育の取組					
担 当 課 等	学校給食センター 庶務係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 地域、学校、家庭との連携・協力を図りながら、学校給食を通じて、豊かな心を育み、健康な人間の育成を目指す。知育・徳育・体育のバランスの取れた教育を推進するために、調査等を行い、その結果を基に実施する。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ・児童・保護者に対して食に関する教育の実施（栄養教諭等が学校訪問した回数）					
	年度	給食回数	授業時間	訪問校		
	R 3	10 回／年間	0 時間／年間	3 校		
	R 4	61 回／年間	20 時間／年間	5 校		
	・黒部市学校給食研究会 「食への理解を深め、健康に生きるための望ましい食習慣を身に付ける指導はどうあるべきか」をテーマに各学校で研究実践を行った。					
	・「ゲンキッズ調査」(県教育委員会) アンケートの実施					
	年度	黒部市		富山県		
		朝食摂取状況	偏食していない状況	朝食摂取状況	偏食していない状況	
	R 3	(小) 99.2% (中) 98.4%	(小)89.1% (中)96.1%	(小) 99.1% (中) 97.6%	(小)89.6% (中)96.1%	
	R 4	(小) 99.0% (中) 97.6%	(小)88.7% (中)95.5%	(小) 99.0% (中) 97.2%	(小)88.8% (中)95.6%	
	調査結果（とやまゲンキッズ作戦「健康づくりノート」集計より）					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 学校給食訪問は、新型コロナウイルス感染症予防のため、各小学校の巡回の回数を減らしたが、徐々に訪問回数を増加して実施できた。 指導方法について校内放送を利用するなど工夫しながら、あいさつ、姿勢、食べ方など給食マナーに関する呼び掛けやポスター掲示、保護者へのお知らせ（ホームページ（閲覧数 2,025 件）などの積極的な取組を行った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 小学生や中学生の朝食摂取率や偏食率は若干変動が見られるが、全体的に前年度とほぼ横ばいだった。引き続き食事の回数についてのみならず、食事の内容について指導する必要がある。 食育指導は、生涯にわたり健やかな体と心を保ちながら生きる能力を身に付けるために必要である。今後も「黒部市食育推進計画」に基づき、各学校での指導の成果と課題を明確にしながら、学校給食や各教科の中で、食育に関する指導を行うことが求められる。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 継続して実施する。					

個別事業名	(2) 体力の向上・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班、教育センター					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	0				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果をもとに、市内の児童生徒の体力、運動能力、運動習慣の状況を把握・分析し、体力向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 小学5年生男女の得点合計の結果は、全国の結果を上回っており、男子は前回調査の結果も上回っている。5段階の総合評価では、男女とも上位2 (A、B) 評価の割合が全国の結果を上回っている。種目別では、長座体前屈、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げは、男女ともに全国の結果を上回っている。昨年度の黒部市の5年生と経年比較すると男子は前回よりも低く、女子は同程度であった。 中学2年生男女の得点合計の結果は、全国の結果を上回っている。男子は前回調査の結果も上回っている。5段階の総合評価では、男女とも上位2 (A、B) 評価の割合が、全国の結果を上回っている。種目別に、握力、持久走、20mシャトルラン、ハンドボール投げは、男女ともに全国の結果を上回っている。昨年度の黒部市の中学2年生と経年比較すると男女とも同程度であった。 今後は、種目に応じて学年や個人の目標を明確にしたり、課題のある項目については準備運動等において内容を決めて継続して取り組んだりしていく。					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) コロナ禍においても、工夫しながら体育の授業を実施してきたことで運動量が確保されていたと思われる。その結果、多くの種目について全国平均を上回っていたと考えられる。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 調査のまとめの時期が遅かったため、課題を見つけ改善につなげるということが十分にできなかった。今後は、課題のある項目の改善策、運動を苦手としている児童生徒への指導の工夫を早めに取りかかるようにしていきたい。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 課題・改善を踏まえ、継続する。					

個別事業名	(3) スポーツエキスパート派遣事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	1, 287		240		1, 047
	R 4	1, 176		208		968
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 中学校運動部に、スポーツの専門的な技術指導者（外部指導者：スポーツエキスパート）を派遣し、運動部顧問と連携を取りながら中学校の部活動の充実と生徒の体力向上を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 派遣者数					
	学校名	清明中	明峰中	計		
	R 3	13 人	11 人	24 人		
	R 4	11 人	10 人	21 人		
	実技指導力を有する 21 人をスポーツエキスパートとして委嘱し、市内両中学校に派遣した。スポーツエキスパートの指導により、部活動の活性化を図り、生徒の競技力の向上や部活動を通じた連帯感の醸成、達成感を得ることができた。					
	指導者（21 人：野球、剣道、卓球、柔道、バスケットボール、バドミントン、ソフトテニス、陸上競技、サッカー、アーチェリー）					
※スポーツエキスパートについて						
・教員以外のスポーツの専門的な実技指導力を有する 20 歳以上の者に対し、競技歴、取得ライセンス、指導歴などを踏まえ教育委員会が委嘱する。						
・1 回の指導は 2 時間程度（年間 30 回を上限：県 24 回＋市 6 回）						
点検・評価	総合評価		A（前年評価	A）	5 段階評価：A A, A, B, C, D のいずれかを記載	
	(上記の評価をした理由) 生徒をスポーツに親しませながら、健康と体力の増進、競技力の向上を図ることができたとともに、教員（部活動顧問）の負担軽減につながった。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 地域部活動への移行を踏まえ、必要な部活動と人員の見直しを検討する必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各部活動の所属生徒数や活動状況に応じて適切な規模が維持できるよう継続する方向である。					

個別事業名	(4) 給食センターの衛生管理、調理・洗浄業務、給食配送業務					
担当課等	学校給食センター 庶務係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	111,918			16	111,902
	R 4	118,881		1,100	16	187,762
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 給食センターの給食受配校（2中学校、9小学校、1幼稚園）に対し、安全・安心な給食を確実に提供するため、衛生管理の徹底及び調理・洗浄・配送業務の適切な実施を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ・令和4年度給食実施実績（遅滞なく完全実施） 実施延べ日数 200 日 延べ給食数（副食）625,956 食（約 3,130 食/日） ・衛生管理の徹底（健康管理、食材の検収、設備点検の強化） 食中毒 0 件（前年度 0 件） 副食への虫等の異物混入 3 件（前年度 8 件） ・調理・洗浄業務、給食配送業務の業務委託 各業務を専門業者へ委託するとともに、適切な指示と各々の連携により、迅速かつ確実に業務が遂行された。					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) ・給食実施日において、新型コロナウイルス感染症による学級閉鎖や学年閉鎖が、延べ 71 日、4,413 食におよんだが、滞りなく給食を提供することができた。また、適切に対応できるよう環境（食材の納入量や献立内容の調整・準備）を整え、給食を欠くことなく完全実施できた。 ・食材の検収や下処理等の観察により異物混入を最小限に抑えることができた。（副食の場合、給食配送前に異物を約 98.5%発見（R3:98.5%）） ・給食配送業務において、学校の要望に応じた配送時間の変更について適宜対応できた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 衛生管理や調理・洗浄業務、配送業務は概ね適切に実施されている。今後、施設の老朽化に伴う設備の保守点検の強化、計画的な設備の更新が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) ・施設の老朽化に伴うボイラー更新工事を R5 に向けて滞りなく実施し、安全・安心な給食を確実に提供する。 ・調理・洗浄業務及び配送業務について、5 年毎に委託業者の見直しを行うとともに、業務実態（給食配給校の変更等）に応じて委託内容を検討する。					

施策の分野	⑨安全
方針・目標	<p>・幼稚園、学校の安全な環境づくりのため、保護者や地域住民と共に幼児・児童・生徒を守る地域ぐるみのネットワークづくりを推進する。</p> <p>・事故や災害、不審者等への幼児・児童・生徒の危険に対する的確な判断力や対応力を高めるため、安全教育(生活安全や交通安全)や防災・防犯教育を一層推進する。</p>

個別事業名	(1) 安全管理																										
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班																										
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																					
	R 3	515		342		173																					
	R 4	517		344		173																					
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 児童生徒が、安全に安心して学校生活を送ることができるように、必要な事業を学校、地域、家庭が連携して実施する。																										
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 交通・防犯関係では、幸いにも年度中は、児童生徒の生命に関わる重大事故等の事案は発生しなかったが、児童生徒が関係する交通事故が8件発生した。 通学路に関して、平成28年度より通学路合同点検を行っているが、通常の交通安全の観点に加え、防犯の観点も含めた安全点検として2月に関係部局と実施した。 この他、例年どおり小学校新1年生に防犯ブザーを貸与し、登下校時の自己防衛について指導を行った。 また、不審者情報については、速やかに各小中学校に情報提供した。 ＜新1年生防犯ブザー貸与者数＞ <table><tr><td>年度</td><td>貸与者数</td></tr><tr><td>R 3</td><td>352 人</td></tr><tr><td>R 4</td><td>277 人</td></tr></table> ＜不審者情報＞ <table><tr><td>年度</td><td>不審者情報</td><td>不審電話情報</td><td>その他情報</td><td>合計</td></tr><tr><td>R 3</td><td>6 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>6 件</td></tr><tr><td>R 4</td><td>10 件</td><td>0 件</td><td>0 件</td><td>10 件</td></tr></table> ※黒部市のみの件数（その他情報にクマ出没情報は含まれていない。）						年度	貸与者数	R 3	352 人	R 4	277 人	年度	不審者情報	不審電話情報	その他情報	合計	R 3	6 件	0 件	0 件	6 件	R 4	10 件	0 件	0 件	10 件
	年度	貸与者数																									
	R 3	352 人																									
	R 4	277 人																									
	年度	不審者情報	不審電話情報	その他情報	合計																						
	R 3	6 件	0 件	0 件	6 件																						
R 4	10 件	0 件	0 件	10 件																							
総合評価 A（前年評価 A）			5段階評価：A A、A、B、C、Dのいずれかを記載																								
(上記の評価をした理由) 平成28年度より通学路合同点検を行っているが、2月に交通安全と防犯の両面の観点から通学路合同点検を関係部局と行った。他県で発生した通学中の児童が死傷する事故を受け、観点を絞り点検箇所を選定、現地確認を実施した。 また、国の補助事業を活用して地域の安全パトロール隊のベスト等の物品購入費用を助成し、児童生徒の見守り体制を拡充した。																											
(具体的な改善内容を記載) 交通や防犯の観点から、関係部局と通学路の点検を行っているが、費用面で信号機を設置できないなど、対策が難しい箇所も多い。引き続き関係部局と連携を続けていくほか、地域の安全パトロール隊等の協力も得ていく必要がある。																											
(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き、小学校新1年生全員へ防犯ブザーの貸与を行うほか、国の補助事業を活用した地域の安全パトロール隊への防犯ベスト購入等について助成するなどの拡充を図る。																											

個別事業名	(2) 遠距離通学対策 (スクールバス運行事業・通学定期券補助金)					
担 当 課 等	学校教育課 庶務係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	52, 516	2, 290			50, 226
	R 4	50, 412	2, 573			47, 839
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 遠距離児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバスの運行及び電車通学に要する定期券購入費用に対し補助する。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等とも比較)					
	1 スクールバス運行実績					
	学校名	対象エリア	運行期間	使用バス	利用人数	
	たかせ小学校	東布施	通年	大型 (市有)	34人	
		鏡野・上田家野	冬期	ジャンボタクシー	4人	
	桜井小学校	高速道路山側	通年	マイクロ (市有)	9人	
		山田新の一部	冬期	冬期はジャンボタクシー併用	16人	
	宇奈月小学校	愛本、下立1区	通年	マイクロ (市有)	19人	
	清明中学校	浜石田、犬山	通年	マイクロ (市有)	23人	
		犬山、田家新	通年	中型 (市有)	32人	
		田家新、田家野、山田	通年	大型 (市有)	52人	
		田家野、神谷、山田	通年	マイクロ (市有)	26人	
		東布施	通年	中型 (市有)	23人	
	明峰中学校	愛本	通年	ワゴン (市有)	9人	
	※通年： 4/1～3/31 (概ね小学校4km超、中学校6km超) ※冬期： 12/1～3/31 (概ね小学校2km超、中学校3km超)					
	2 通学定期券補助実績 (富山地方鉄道)					
	学校名	区 間	補助期間	補助率	利用人数	
宇奈月小学校	宇奈月温泉駅 ～ 愛本駅	→浦山駅 通年	全額	15人		
	下立駅 栃屋駅	〃 冬期	1/2	20人		
明峰中学校	宇奈月温泉駅 ～ 栃屋駅	→荻生駅 通年	全額	115人		
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) ・遠距離児童生徒の通学手段を確保し、登下校の安全確保及び通学時間の平準化と短縮化が図られた。 ・基本的な新型コロナウイルス感染症対策 (車内除菌、車内換気、手指消毒液の配置など) に加えて、乗車率を緩和できるよう運行車両の変更を行うなど適宜対策を図りながら遠距離通学対策を実施した。 ・学校、バス運行业者、富山地方鉄道(株) と緊密な連絡調整を行った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) ・スクールバスによる事故が2件あり、より安全な遠距離通学対策に留意する必要がある。 ・スクールバスの利用エリアを見直しできないかという意見がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) ・現在のスクールバス及び定期券補助の要件を基本としながらも、個別の案件については緩和できないか検討する。					

個別事業名	(3) AED管理事業					
担 当 課 等	学校教育課 学校教育班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	774				774
	R 4	936				936
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) AED(自動体外式除細動器)を全小中学校に配置し、緊急時の児童生徒の救命に資する。小学校は各校1台(石田小学校は2台、旧東布施小学校1台、合計11台設置。中学校は、清明中学校2台、明峰中学校2台、旧鷹施中学校1台、旧宇奈月中学校1台、合計6台設置し、小中合計17台設置している。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) AEDの設置により、日頃の学校活動及び学校施設を利用した児童生徒のスポーツ活動を安心して実施することができた。 AEDの管理記録がいつでも誰でも分かるよう、また、毎月の管理記録を随時、確認した。 教職員を対象としたAED講習会は、過去3年間に於いて全職員が受講できるよう計画的に実施している。					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 滞りなく定期点検、パッド取替、バッテリー交換を行い、適切に管理できた。 1台を小学校から中学校へ移設し、状況に応じた配置を行った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) AEDの使用法の周知のみならず、全職員が緊急時に対応できるよう、救命救急講習を併せて実施していく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) AEDの保守点検を毎年実施していく。 全ての教職員が常に心肺蘇生処置を実施できるよう、計画的に研修を行う。					

施策の分野	⑩教育環境の整備
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して学習できる環境を整備するため、老朽施設の改修や改築、学校施設の空調化の計画的実施に努める。 ・高度情報化に対応して、ＩＣＴ機器の設備・備品の整備及び保守点検に努める。 ・児童生徒が望ましい教育環境の中でたくましく育つように、「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、今後の児童生徒数の見通し、通学上の安全性や遠距離通学対策等を考慮しながら、保護者及び地域の理解と協力のもと、学校規模(児童生徒数、学級数)の適正化に努める。

個別事業名	(1) 学校施設の大規模改修・耐震補強工事					
担 当 課 等	学校教育課 施設係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	178, 053	93, 162		84, 100	791
	R 4	209, 055	65, 786		103, 400	39, 869
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 経年劣化などによる施設の改修及び学校活動に適した質的施設整備を行い、よりよい学習環境の改善を図ることを目的とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 以下の整備等を実施した。 R 3 ・生地小学校プール耐震補強工事 ・小学校ランチルーム空調設備設置工事 R 4 ・小学校トイレ改修工事(生地小、石田小、村椿小、荻生小、若栗小)					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 改築や大規模改修に併せ、小学校のトイレ洋式化を進めてきたところであるが、その整備状況については、学校間で相当の差異があった。洋式化率が比較的低く多目的トイレ未設置の小学校について改修工事を実施したところ、小学校のトイレ洋式化率は52.7%から72.9%へ上昇した。 改正バリアフリー法の全面施行を受けた多目的トイレの設置や、新型コロナウイルス感染症対策としての洋式化・乾式化によるトイレの衛生環境の向上を図ることができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 所管課や教職員をはじめとする関係者が協議して策定する施設整備計画及び個別施設の長寿命化計画に基づいた、的確かつ経済的な施設整備が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き児童生徒の安全・安心を第一義として、しっかりと学習に取り組むことができる、望ましい学習環境を整備していく。 そのために、策定した学校施設長寿命化計画を基に、状況の変化を踏まえつつ、各学校の大規模改修を進めていく。 【今後の予定】 ＜令和5年度以降＞ ・小學校外壁、屋上防水改修工事 ・小學校照明LED化改修工事					

個別事業名	(2) 黒部市立小中学校再編計画の推進					
担 当 課 等	学校教育課 庶務係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				
	R 4	1, 285				1, 285
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>平成24年10月に策定した「黒部市立小中学校再編計画」に基づき、適正な学校規模の実現を図る。今後の児童生徒数の見通しを踏まえつつ、各学校の教育活動、家庭・学校・地域との関係、学校教育施設の状況、市民の意向、新たな通学区域の設定と通学環境の安全性確保などを考慮した上で、計画の着実な実施を推進する。</p> <p>【計画期間】平成25年度～令和9年度（15年間）</p> <p>＊前期計画：平成25～平成29年度（小学校再編：東布施・田家、前沢・三日市）</p> <p>＊後期計画：平成30～令和4年度（中学校再編：宇奈月・桜井、鷹施・高志野）</p> <p>＊将来構想：令和5～令和9年度（小学校再編：生地・村椿、荻生・若栗）</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>1 学校再編について</p> <p>令和4年4月 市長交代を受けて、学校再編の概要、将来構想について説明。</p> <p>令和4年10月 事案報告により進捗状況について市長に説明</p> <p>令和4年12月 市議会での市長答弁（要旨）</p> <ul style="list-style-type: none">・学校再編は、児童のみならず、学校が所在する地区にも大きな影響を及ぼす・今後の小学校の再編は児童数の推移を見極めた新たな枠組みでの再編についても検討していく必要がある・市議会をはじめ、市民の皆様のご意見をお聞きしながら、計画を策定してまいりたい <p>市議会の市長答弁にあわせて、策定中の第2次黒部市総合振興計画後期基本計画のうち、学校再編についても「今後の学校再編については、適正な学校規模の確保及び実施の有無も含め検討を進める必要がある」とし、「学校再編については、市民の皆様の意見をお聴きしながら実施の有無も含めて検討」することとした。</p> <p>2 跡地利活用</p> <p>令和4年6月に庁内に立ち上げられた財政課所管の公有財産活用検討委員会で実現の可能性がある活用方法について、情報収集と検討を行った。</p>					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	（上記の評価をした理由） 市長の方針を確認しながら、第2次黒部市総合振興計画後期基本計画に再編の方向性について記した。					
課題・改善	（具体的な改善内容を記載） 人口推計について引き続き注視し施設老朽化を踏まえ再編について検討していく必要がある。					
今後の方向	（継続・拡充・縮小・廃止などを判断） 令和5年度中に公表される国立社会保障・人口問題研究所の市町村別人口推計を踏まえ、再編について継続して検討していく。					

(3) 生きがいと心身の健康を支援する社会教育及びスポーツ

施策の分野	①青少年の健全育成
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年の社会性を育むため、地域において多様な体験活動の場を提供するなど、家庭・学校・地域・関係機関の連携のもとに青少年の健全育成に努める。 ・身近な自然環境や吉田科学館を活用して、青少年期の自然や科学への興味・関心を育てる。

個別事業名	(1) 青少年育成黒部市民会議助成事業					
当 課 等	生涯学習文化課 女性青少年係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	108				108
	R 4	108				108
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 青少年育成黒部市民会議補助を行い、県民会議との連携や市の様々な青少年行事を通じて青少年の健全育成を図っている。(主な行事：夏・秋のさわやか運動、11 月子ども・若者育成市民啓発事業、意見発表大会、善行青少年表彰式、有害環境浄化合同研修会等)					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 夏と秋のさわやか運動では、あいの風黒部駅等市内6か所で、通学・通勤者に対してのあいさつや声かけ運動を実施した。 子ども・若者育成市民啓発事業では、子どもの権利について広く知ってもらい、子どもと大人が互いに確認しあうために、中学生が「名水の里くろべ・こどもの権利宣言」の発表を行った。 少年少女活動実践意見発表大会では、児童・生徒が日常の体験で感じたことや実践に基づく意見発表(5人)の場を設け、学校や地域での活動が今後の模範として認められる青少年(6個人、9団体)に対して、善行青少年表彰を行った。 有害環境浄化合同研修会では、社会の変化とともに変容する、少年を取り巻く環境についての知識の習得を図った。 また、夏休みと冬休み前には、休み中の安全な過ごし方を呼び掛けるチラシを市民会議と教育委員会が共同で作成し、市内小中学生全員に配布している。					
	行事名		R 3 参加人数		R 4 参加人数	
	夏のさわやか運動		112 人		135 人	
	秋のさわやか運動		111 人		127 人	
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) コロナ感染対策を徹底し、規模縮小等の工夫をしながら各事業を実施した。 毎年11月の「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせ、子ども・若者育成支援のための諸事業、諸活動を集中的に実施することにより、市民の子ども・若者育成支援に対する理解を深めるとともに、各種活動への積極的な参加を促し、市民運動の一層の充実と定着を図った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 青少年問題が複雑多様化している今日、青少年一人一人に目を向け、地域で守り育てる意識づけ、環境づくりをしていく必要がある。そのためには、市民会議が積み重ねてきた活動を今後も継続していくとともに、関係団体との連携を強化し、効果的な活動や呼び掛けを行い、地域全体で青少年問題に取り組んでいく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 青少年育成黒部市民会議運営費補助金については今後も継続する。また、市民会議の活動への助成だけではなく、市として青少年の健全育成の呼び掛けや若者をサポートする活動を検討していくとともに、関係団体の自発的な活動の促進に努める。					

施策の分野	②女性活動事業の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「くろべ男女共同参画プラン」に基づき、男女間のあらゆる暴力の根絶と安全・安心で心豊かに暮らせるように活動を支援する。 ・男女共同参画都市宣言等の普及啓発活動や地域社会全体の連携を図りながら、男女で支え合う地域づくりを推進する。

個別事業名	(1) 配偶者等暴力被害者相談事業																	
担 当 課 等	生涯学習文化課 女性青少年係																	
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 3	282				282												
	R 4	282				282												
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>DV (ドメスティック・バイオレンス: Domestic Violence の略) の実態は、国においても大きな問題であり、配偶者等からの暴力をめぐる問題は年々増えており、潜在化しているものも多いと考えられる。DV法改正により市町村での対応強化と被害防止が求められている。市では総合振興計画個別事業の重点事業である男女共同参画事業の中において配偶者等暴力被害者への支援策として位置付けている「女性のための専門相談」を定期的に実施し、女性が悩みを相談しやすいよう専門知識をもつ民間カウンセラーが定期的に対応し、切れ目のない支援を行うことを目的とする。</p>																	
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>DV相談の専門知識を有する女性の相談員が対応することや、予約から相談まで人目を気にせず行える体制とするなど、安心して相談できる仕組みを整え実施した。</p> <table><tr><td>年度</td><td>実施回数</td><td>相談者数</td><td>相談件数</td></tr><tr><td>R 3</td><td>12 回</td><td>10 人</td><td>13 件</td></tr><tr><td>R 4</td><td>12 回</td><td>4 人</td><td>7 件</td></tr></table> <p>「女性のための専門相談」の開催日時を広報くろべ等により周知を行った。</p> <p>また、窓口を有する課の職員及び保育所職員を対象とした研修会を開催し、DV被害に関する基本的な知識の習得並びに被害支援を行う職員自身の二次受傷の予防について、グループワークを交えて適切な傾聴方法等の基本的技法の取得に務めた。</p>						年度	実施回数	相談者数	相談件数	R 3	12 回	10 人	13 件	R 4	12 回	4 人	7 件
年度	実施回数	相談者数	相談件数															
R 3	12 回	10 人	13 件															
R 4	12 回	4 人	7 件															
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載													
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>民間の専門知識を備えたカウンセラーが相談に応じ、個人のプライバシーにも十二分に配慮し、安心して利用できるように実施している。</p> <p>また、市役所窓口や保育現場等におけるDVの早期発見や未然防止を図ることを目的とした職員研修により、基本知識の習得並びに防止啓発意識の高揚につながった。</p>																	
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>DVは周囲の目に触れない閉鎖した場所で行われることが多く、潜在化し被害が深刻化しやすい。最近では若いカップルや夫婦間でのDVが増加傾向にあり、被害者が怪我を負う事案や連鎖として児童虐待につながる事案も見られる。</p> <p>まず、被害者が孤立せず、なるべく早期に対応できるよう、相談場所の周知に努め、相談利用の促進、必要な支援につなげていかなければならない。また、県女性センター等の専門機関と連携し、継続して寄り添う伴走型支援により支援の幅を広げ、相談者が安心して相談できる見守り体制が必要である。</p>																	
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>近年の相談者は、DVや生活困窮、高齢者、障がい、子育て分野などの重層的な課題を抱えていることが多い。一方で、相談者自身がDV被害者であるという認識が低いケースも見られるため、市窓口や保育所等において早期発見の視点をもち対応することが期待される。そのため、職員の資質向上と関係各課が連携・情報共有を行う体制を構築するなど、相談体制の充実に努め、被害者の支援に取り組む必要がある。</p>																	

個別事業名	(2) 女性団体の育成					
担 当 課 等	生涯学習文化課 女性青少年係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	108				108
	R 4	108				108
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市内6団体で構成する「くろべ女性団体連絡協議会」の活動を支援することにより、女性の自立した活動支援、女性団体の組織力向上と活性化を図る。また、活動支援を通じて、女性リーダーの育成を目指す。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度などとも比較) くろべ女性団体連絡協議会の活動支援 ・隔年実施（令和5年度開催予定）している「黒部市女性議会」は、令和4年度開催なし。 ・毎月1回の役員会において、市内女性6団体の活動共有や意見交換を行った。 〈主な活動〉 ・第38回カーター記念黒部名水マラソン等における大鍋作り協力 ・研修会等の開催 (1)「Smiley tomorrow 笑顔の明日へ 『見た目問題』当事者としての人生」 講師：川除 静香 氏 (2)「富山県の女性活躍を考える ～性別に関わらず、能力を発揮でき、幸せを感じられる社会へ～」 講師：富山県副知事 横田 美香 氏 (3)女性のつどい「市政懇話会」講師：黒部市長 武隈 義一 氏					
点検・評価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 女性活躍社会の実現を目指す女性団体の活動支援を通じて、会員自身が男女共同参画社会に向け女性の地域活動や社会活動における役割が大きくなっている現状を踏まえ、市政への関心を深め、これからの地域活動に参画することの重要性を認識することができた。 また、令和5年度予定の「黒部市女性議会」の開催に向け、常に様々な事柄に興味・関心をもち、女性が積極的に社会参加できる体制づくりと機会の提供に努めた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 会員の高齢化に伴い会員数が減少しており、新規会員の加入と育成を進めていく必要がある。また、社会ニーズに応じた協議会のあり方について整理する必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 女性の自立した活動支援、女性団体の組織力向上と活性化については、引き続き、活動支援が必要である。 くろべ女性団体連絡協議会の活動のあり方についての方向性を定める必要があり、女性リーダー育成につながる事業実施方法について協議会において検討していく。					

施策の分野	③生涯学習機会の提供
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・主体的に学ぶことのできる場及び機会を提供するため、市民の多様な学習ニーズに応じた各種講座の開催や、公民館及び博物館等社会教育施設の充実を図る。 ・中心市街地への都市機能の立地や居住の誘導を図るため、図書館を核に生涯学習や情報の収集・発信・保存など市民の知的好奇心を満たす多機能を有する施設として、(仮称)くろべ市民交流センターを整備する。

個別事業名	(1) コミュニティづくり推進事業					
担 当 課 等	生涯学習文化課 生涯学習係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	7,300				7,300
	R 4	7,400				7,400
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 少子高齢化社会の中、地域コミュニティの維持は、各種行政サービスの推進にあたっての生命線となっている。住民の多様な学習ニーズに応えながら、地区公民館を拠点とした学習活動を推進し、地域コミュニティの強化を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 16 地区の公民館において、書道、水墨画、刺繍、生花、民謡、大正琴、茶道、体操等の地域の特色、住民ニーズに応じた多種多様な講座や教室、サークル活動、地域行事を開催し、生涯学習を通じたコミュニティづくりを推進した。 また、平成 29 年度から引き続き重点館を設定し、4 館（生地公民館、石田公民館、田家公民館、宇奈月公民館）に事業委託をした。 ※ 新型コロナウイルス感染症予防の十分な配慮と活動の両立に取り組んだ。 [公民館利用者実績]					
	年度	利用回数	利用者数			
	R 3	9,391 回	124,292 人			
	R 4	10,577 回	141,384 人			
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 各公民館において、コロナ禍だからこそ生まれた企画や、デジタル技術を活用した事業等、地域の特色を出しながら新たな事業を実施し、地域課題を自らの力で解決するまちづくりが図られた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 公民館における利用者の高齢化と固定化が進んでおり、特に、地域活動の将来を担うリーダー育成の観点から、働く世代や若年層の新しい公民館ユーザーを増加させていくことが重要である。そのためには、あらゆる世代の生涯学習ニーズを把握し、時代に対応した生涯学習機会の提供とともに、SNS や YouTube 等を活用し、公民館活動の見える化を行うことによる、未利用者層へのアプローチが必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各公民館におけるコミュニティづくり推進事業は、継続・拡充が強く求められている。地域の課題は自ら解決する自立したまちづくりを推進するためにも、地域活動の拠点施設として地区公民館が機能を発揮できるよう、今後も事業を継続していく。					

個別事業名	(2) 生涯学習フェスティバル開催事業					
担 当 課 等	生涯学習文化課 生涯学習係、生涯学習文化スクエア「ぷらっと」					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	648				648
	R 4	648				648
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 各公民館等の活動や学習成果を広く市民に発表し、生涯学習の活性化を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	生涯学習フェスティバル（2月11日（土）～12日（日）開催）では、各公民館から選ばれた作品（手芸、絵画、工作、書道、写真等）を展示した。					
	カーターホールにおいて、各館を舞台に活動するサークル団体のステージ発表を行った。コロナ禍で発表の場が奪われた皆さんの口惜しさが報われ、気持ちが晴れるような内容であった。					
	また、愛本地区出身で放送業界の第一線で活躍する放送作家中野俊成さんによる講演会を開催、老若男女問わず多くの方が興味を持ち、来場者が前年比215.4%と増加し、過去最高を更新した。さらに、司会を地元公民館主事を買って出たり、これまでにない有機的な連携によりさらに魅力が高まるなど、ふるさと教育を推進する事業となり、コロナ禍でも事業をあきらめない好事例として示すことができた。					
	年度	展示観覧者	アトラクション来場者	計		
	R 3	405 人	276 人	681 人		
	R 4	686 人	781 人	1,467 人		
点検・評価	総合評価 AA（前年評価 AA）		5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由)					
	来場者増加につなげるため、プログラム編成を工夫した。 広報活動は、例年の公共施設でのチラシの配布、広報くろべや市ホームページへの掲載、各地区公民館、小中学校等への周知等に加え、テレビCM やケーブルテレビを活用し、来場者の増加に向けてPRを図った。 一度に大勢来場してもコロナ対策を徹底し、安全、安心に生涯学習活動へ参加いただくことができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 市内各公民館のサークル活動者にとって、発表の機会として、また、活動の目標として、積極的な活動のエネルギー源になるものであり、観客の確保を図る上で、飽きさせない魅力的な企画としていく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各公民館での活動を改めて広く披露することで、より一層市民の活力を向上させるとともに、市内のサークル活動が普段利用する拠点を超えて交流し、刺激し合う場となっている。今後は、これまでの実績と本事業で培った英知を地域活動へ還元し、地域活動の活性化や地域教育の推進に繋げるため、今後も黒部市公民館連絡協議会と連携を図りながら継続していく。					

個別事業名	(3) 市民教養講座・市民カレッジ事業																							
担 当 課 等	生涯学習文化課 生涯学習係、黒部市生涯学習文化スクエア「ぷらっと」																							
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																		
	R 3	601			62	539																		
	R 4	553			59	494																		
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が気軽に参加できる生涯学習の場を提供し、市民教養・市民カレッジ事業の展開を図りながら、人のつながりによる地域活性化を実現する。																							
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 市民教養講座（R 3年度から名称変更。旧：市民大学講座）は、地域の産業や特徴的な活動に関する講演等を7回開催。また、季節に応じたイベントを4回、併せて計11回開催した。（うち8回は「黒部市老人クラブ連合会」「市民カレッジシニア元気教室」と共催） 市民カレッジ一般教室は、市民から要望のある講座等を開催し、興味をもった方々によるサークル化への移行を意図しながら実施した。 市民カレッジシニア教室では、市民教養講座と共催で、体操教室や、伝統芸能鑑賞などを実施した。																							
	<table><tr><td>年度</td><td>講座数</td><td>開催回数</td><td>延べ受講者数</td></tr><tr><td rowspan="2">R 3</td><td>市民教養講座</td><td>10 回</td><td>333 人</td></tr><tr><td>市民カレッジ</td><td>37 回</td><td>977 人</td></tr><tr><td rowspan="2">R 4</td><td>市民教養講座</td><td>11 回</td><td>401 人</td></tr><tr><td>市民カレッジ</td><td>32 回</td><td>907 人</td></tr></table>						年度	講座数	開催回数	延べ受講者数	R 3	市民教養講座	10 回	333 人	市民カレッジ	37 回	977 人	R 4	市民教養講座	11 回	401 人	市民カレッジ	32 回	907 人
	年度	講座数	開催回数	延べ受講者数																				
	R 3	市民教養講座	10 回	333 人																				
		市民カレッジ	37 回	977 人																				
R 4	市民教養講座	11 回	401 人																					
	市民カレッジ	32 回	907 人																					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A） 5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載 (上記の評価をした理由)																							
	市民ニーズに対応するため講座内容を厳選した。参加者の増加に向け、子育て世代、勤労者世代が参加しやすいよう、土日での開催に取り組んだ。 広報については、広報くろべ、市ホームページ、公民館ホームページ及び防災行政無線などを利用し、周知と普及に努めた。																							
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 行政が実施する生涯学習事業として、市民ニーズと民間サービスとのバランスを意識したうえで、講座内容を検討していく必要がある。また、広く市民の参加が進むよう、これまでの広報に工夫を凝らす必要がある。 施設のあり方を見直し、営利活動にも利用に幅を広げたことから、受講料を伴う教室・講座等の貸館利用の増加を目指す営業努力も必要である。																							
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 人生 100 年時代を迎え、これまでの社会教育の領域を超えた全世代型の生涯学習活動の拠点としてより充実させるとともに、物販や教室等の貸館としての利用や文化活動の場としての利用促進を図るため、時代のニーズに柔軟に対応した企画を実施していく。 広報くろべ、館報、みら一れTV、コミュニティ放送、市ホームページ等を活用するほか、広報媒体と表現方法も見直しながら、活動や行事の「見える化」を推進する。																							

個別事業名	(4) 読書普及事業					
担 当 課 等	図書館 奉仕係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	47, 835	2, 079		5, 428	40, 328
	R 4	55, 586			168	55, 418
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民の多様なニーズに応え、一人一人が本との出会いを通じて、暮らしの中に図書館が息づき、「いつでも・どこでも・だれでも」が利用しやすい施設整備及び図書館活動の推進を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ・ 図書館利用状況					
	年 度	館 名	貸出冊数	貸出人数	入館者数	開館日
	R 3	黒部市立図書館	180, 599 冊	34, 929 人	64, 436 人	288 日
		宇奈月館	39, 852 冊	8, 375 人	14, 967 人	280 日
		合計	220, 451 冊	43, 304 人	79, 403 人	
	R 4	黒部市立図書館	179, 000 冊	36, 794 人	67, 099 人	301 日
		宇奈月館	35, 826 冊	8, 396 人	15, 078 人	292 日
		合計	214, 826 冊	45, 190 人	82, 177 人	
	・ 予約・相互貸借利用件数・企画展の回数					
	年 度	館 名	予約件数	相互貸借件数	企画展回数	
	R 3	黒部市立図書館	14, 138 件	989 件	9 回	
		宇奈月館	3, 874 件	185 件	8 回	
		合計	18, 012 件	1, 174 件		
	R 4	黒部市立図書館	14, 393 件	1, 118 件	10 回	
		宇奈月館	3, 999 件	416 件	7 回	
合計		18, 392 件	1, 534 件			
・ 図書受入冊数 ※CD・DVD 等を含む数						
館 名		R 3		R 4		
黒部市立図書館		7, 992 冊 (内 寄贈 525 冊)		8, 363 冊 (内 寄贈 787 冊)		
宇奈月館		1, 539 冊 (内 寄贈 550 冊)		1, 296 冊 (内 寄贈 279 冊)		
合計		9, 531 冊 (内 寄贈 1, 075 冊)		9, 659 冊 (内寄贈 1, 066 冊)		
点検・評価	総合評価		A (前年評価 A)	5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 新図書館への移転を目前に控えていることから、蔵書点検期間の休館を行わず、通常どおり開館したため、入館者数は3.5%の増加となった。また、令和3年度末のシステム更新により、在架予約(書棚にある本の予約対応)を始めたことにより、予約件数が2.1%増加した。図書館資料の充実及び郷土資料の収集に努めるとともに、企画展や読み聞かせボランティアの研修会開催のほか、学校、保育所等との連携により読書の普及を図った。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 昨年度の点検評価において課題としていた、図書館ボランティアの育成に努めた。また、資料収集やレファレンスなどサービス向上に資する職員研修を行った。新図書館の開館に向け、多機能融合施設であることを活かし、各機関と連携した新しい取組の実施や、利用者ニーズに即応した図書館運営を目指し、読書活動の普及に努めていく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 図書館資料を充実させるとともに企画展など関心を引く催しを開催し、利用しやすい環境づくりを継続して進め、黒部市立図書館、宇奈月館それぞれにおいて特色ある運営を目指す。また、SNSなどを活用し積極的に図書館の活動PRに努める。					

個別事業名	(5) 図書団体貸出事業					
担 当 課 等	図書館 奉仕係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	60				60
	R 4	60				60
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 子どもたちがより多くの本に接する機会を増やし、本に親しんでもらうことを目的とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	① 保育所、幼稚園、小学校等への団体貸出実績					
	館 名	年 度	団体登録数	利用団体数	貸出冊数	
	黒部市立図書館	R 3	191	620	13,940	
		R 4	195	675	12,463	
	宇奈月館	R 3	33	426	4,428	
		R 4	30	522	5,060	
	② 「小・中学校国語教科書に紹介された本」のセット貸出の実施 教科書において紹介された本を学年・学級単位で1セット・2週間貸し出した。 小学校⇒932 冊 (1 学年3セット・6 学年で18セット) 中学校⇒231 冊 (1 学年1セット・3 学年で3セット)					
	年 度	団体貸出学校数		延べ貸出冊数		
	R 3	小学校8校		7,031 冊		
R 4	小学校7校		5,025 冊			
③学校への「ふるさと文学」の貸出の実施 (小学校3校)						
④学童保育への団体貸出実施 合計 4,482 冊						
【R 4 実績内訳】						
黒部市立図書館 9 地区			計2,802冊 (R 3 : 2,722冊)			
黒部市立図書館宇奈月館			計1,680冊 (R 3 : 1,534冊)			
点検・評価	総合評価 B (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由)					
	保育所、幼稚園、小学校等への団体貸出の実績は、令和3年度と比べ団体登録数はほぼ横ばい、貸出冊数は4.8%の減少となったものの、利用団体数14.4%の増加となった。 富山県にまつわる図書を集めた「ふるさと文学」(1セット・35 冊)の貸出は、前年度2団体のみであったが、1団体増え、3小学校の貸出となった。 学童保育への団体貸出の貸出冊数は令和3年度より5.3%増加した。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 「小・中学校国語教科書に紹介された本」は資料を広く活用してもらうため、黒部市立図書館内にコーナーを設置し貸出を行うほか、セット貸出を行っているが、同時期に貸出の希望が集中してしまうため、貸出期間と時期の調整に更なる工夫が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 図書館の所蔵本を各団体へ積極的にPRするとともに各団体のニーズを把握し、きめ細やかな選書を行うことでより一層読書普及活動に努める。学校関係については、より利用しやすいものとなるよう、教員や学校司書の意見も取り入れながら活用促進を図る。					

施策の分野	④市民文化活動の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の芸術文化活動を推進するため、優れた芸術文化を鑑賞したり親しんだりすることができる機会を増やす。 ・市民が、自発的に新しい創作活動ができるよう芸術文化活動の支援・育成に努める。 ・市民の芸術文化の振興、科学教育の普及のため、美術館及び吉田科学館の企画事業の更なる充実を図る。

個別事業名	(1) 黒部市芸術祭の開催及び芸術体験の充実					
担 当 課 等	生涯学習文化課 文化振興係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	28, 593		833	20, 000	7, 760
	R 4	41, 098		833	30, 000	10, 265
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が多様な文化に触れる機会を創出し、芸術文化の向上と振興を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ＜芸術祭 市美術展＞ 美術展は、市内在住者、勤務者、通学者及び出身者、中学生以上の方の絵画・書・写真・彫刻工芸デザイン作品を募集し、コラーレで開催した。 会期：令和4年10月28日～11月1日（5日間）（事業費961千円）					
	年度	観覧者数	一般 出品点数	審査員・運営委員・賛助 出品点数		
	R 3	992 人	99 点	37 点		
	R 4	697 人	122 点	35 点		
	＜芸術祭 劇団フロンティア公演＞ 11月26日・27日、12月3日・4日シアターフロンティアにおいて、演劇公演「一丁目ぞめき」を計4回開催した。(補助金137千円)					
	＜アーティスト in くろべ 青少年交流事業＞ 令和4年9月30日～10月2日にわたり、東京藝術大学の若き音楽家を招聘し、中高生への指導会及びコンサートを芸術創造センターセレネで開催した。 指導会参加者数：12人、コラボ演奏参加者数：9名、黒部峡谷でのミニコンサート鑑賞者数：86人、コンサート鑑賞者数126人（事業費2,500千円） ＜黒部舞台芸術鑑賞会 黒部シアター2022＞ 令和4年5月27日～29日（3日間）にわたり演劇公演「シンデレラ」を前沢ガーデン野外ステージで2回開催した他、東京国際映画祭チェアマン安藤裕康氏によるトーク+映画「東京オリンピック」上映を芸術創造センターセレネで2回開催した。また令和4年10月8日～9日（2日間）にわたり演劇公演「改訂版 北国の春」を前沢ガーデン野外ステージで2回開催した他、映画「黒部の太陽」、「ひまわり」を芸術創造センターセレネで各1回上映した。 参加者数：1,199人内、春開催562人、秋開催637人（補助金22,500千円）					
点 検 ・ 評 価	総合評価 A（前年評価 A）			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 美術展については、鑑賞者は前年度より減少したものの出品者及び出品点数は、高校生の出品が見込め増加した。そのほかの事業については、特色ある芸術文化事業として内容を充実させ、幅広い年代層において芸術文化の向上が図られている。					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) 美術展は各種団体や中学校・高等学校など若い世代への周知の強化を図り、引き続き、多くの方から応募出品されるような工夫が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 参加者の裾野が広がるよう各事業のPR方法を工夫し、市民の芸術文化活動を推進するとともに、特色ある文化芸術の創造・発信する機会を充実し、その振興を図っていく。					

個別事業名	(2) 芸術文化活動団体助成																	
担 当 課 等	生涯学習文化課 文化振興係																	
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源												
	R 3	1,768			190	1,578												
	R 4	2,953			190	2,763												
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市内に活動拠点を置く各種文化・芸術団体に対し補助金を交付し、活動の活性化を図る。																	
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ＜黒部川・水のコンサート&フェスティバル＞ これまでの7月下旬の開催から、8月21日に日を変更し、黒部川公園において開催した。(補助金1,000千円) <table><tr><td>年度</td><td>参加者</td></tr><tr><td>R 3</td><td>中止</td></tr><tr><td>R 4</td><td>2,900 人</td></tr></table>						年度	参加者	R 3	中止	R 4	2,900 人						
	年度	参加者																
	R 3	中止																
	R 4	2,900 人																
	＜黒部市芸術文化協会＞ 創立10周年記念第10回芸術文化祭として、6月4日～5日にコラーレにおいて、会員の作品展示や演芸発表、感謝状贈呈式保存版プログラムを発行した。34団体、6個人会員、総会員数370人。(補助金538千円、創立10周年記念事業補助金300千円)																	
	＜日本黒部学会＞ 特別講演会の開催や研究誌の発行。(補助金190千円)																	
	＜湯の街ふれあい音楽祭モーツァルト@宇奈月＞ 11回目の開催として9月17日～18日に宇奈月温泉街9ヶ所にて「まちかどコンサート」と「スペシャルコンサート」を開催した。(補助金800千円) <table><tr><td>年度</td><td>総観客数</td><td>演奏者数</td><td>演奏会場</td></tr><tr><td>R 3</td><td>125 人 (代替コンサート)</td><td>5 人</td><td>セレネ</td></tr><tr><td>R 4</td><td>2,870 人</td><td>316 人</td><td>セレネ及び宇奈月温泉街9ヶ所</td></tr></table>						年度	総観客数	演奏者数	演奏会場	R 3	125 人 (代替コンサート)	5 人	セレネ	R 4	2,870 人	316 人	セレネ及び宇奈月温泉街9ヶ所
	年度	総観客数	演奏者数	演奏会場														
	R 3	125 人 (代替コンサート)	5 人	セレネ														
	R 4	2,870 人	316 人	セレネ及び宇奈月温泉街9ヶ所														
＜秋のコンサート2022 フォーレ「レクイエム」＞ 11月6日にコラーレにおいて黒部で第九を歌う会とココロ合唱隊によるコンサートを開催した。団員61人、鑑賞者184人(補助金125千円)																		
総合評価 A(前年評価 A) 5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																		
(上記の評価をした理由) 各事業の開催に際し、芸術文化事業実施団体へ補助金交付による支援を行うことにより、芸術の振興や文化の向上に寄与している。																		
(具体的な改善内容を記載) 団体の更なる自立と充実した事業が継続的に実施されるよう、支援内容を見直していく必要がある。																		
(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 各団体の自立を促すとともに、黒部市芸術文化協会による芸術文化祭などの民間の取組と行政施策の位置付けを整理し、費用対効果等の評価を行いながら、継続する。																		

個別事業名	(3) 詩の道句集事業					
担 当 課 等	生涯学習文化課 文化振興係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	17				17
	R 4	17				17
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 黒部峡谷をはじめ本市の豊かな自然等を題材として、市内外の方から広く俳句を募集し、優秀句を選定して広報することで、本市の特色を市内外へPRするとともに、文化に対する市民の理解と関心を高める。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) (1) 応募期間：令和4年5月～12月末まで (2) 投句箱設置場所(市内12箇所) ① 黒部峡谷鉄道株式会社(宇奈月駅) ② 〃 (鐘釣駅) ③ 〃 (樺平駅) ④ 富山地方鉄道宇奈月温泉駅 ⑤ 宇奈月麦酒館 ⑥ 芸術創造センターセレネ ⑦ 尾の沼体験交流施設とちの湯 ⑧ 黒部川電気記念館 ⑨ 地域観光ギャラリー(平成27年度より設置) ⑩ くろべ牧場まきばの風(平成24年度より設置) ⑪ 魚の駅「生地」(平成24年度より設置) ⑫ 宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」(平成28年度より設置) (3) 顕彰方法：賞状の送付					
	年度		応募句数		応募人数	
	R 3		293 句		246 人	
	R 4		300 句		259 人	
点 検 ・ 評 価	総合評価		A (前年評価 A)		5段階評価：A, A, B, C, Dのいずれかを記載	
	(上記の評価をした理由) 黒部市内12箇所に投句箱を設置した。新型コロナウイルス感染症の影響により応募句数は減少していたが、令和4年度の実応募者数は、前年比105%と増加した。新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度と比べ令和3年度は81%、令和4年度は83%となり、コロナ前の応募数に戻りつつある。県内投句者は、77人と前年比64%と減少したが、県外投句者は181人と前年度比142%と増加した。					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) より親しまれる事業として、県内の応募者が増えるよう、地域のよさの発見・発信に繋がるようなPR方法について、更なる工夫が必要である。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 多くの方に俳句を投稿してもらえよう、応募方法の工夫や情報の発信、PRの強化に努めるとともに、入賞者の顕彰方法も検討しながら継続する。					

施策の分野	⑤文化遺産及び自然遺産の保護活用
方針・目標	<p>・地域の伝統文化による郷土愛の醸成や高揚を図るため、芸能・伝統行事の保存・伝承活動を支援する。また、文化財の保護・調査研究、市民への地域文化の普及に努める。</p> <p>・富山県東部にわたる自然遺産、多様で豊かな自然を保護・保全し、多彩な文化を継承するとともに、その活用を図り地域の継続的な発展に繋がる事業を推進する。</p>

個別事業名	(1) 伝統文化の保存継承					
担 当 課 等	生涯学習文化課 文化振興係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	460			460	
	R 4	520			520	
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市内各地域で受け継がれてきている芸能や技術の保存伝承を図るため、各文化財の保存会を支援している。保存会で中心的に活躍する指導者を黒部市伝承芸能伝承技術士として認定し、指導者の育成に努める。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 保存会を中心とした地区住民の力で伝承芸能は継承されてきた。 各地区公民館より、推薦いただいた指導者を、地域の伝承芸能技術士として認定している。令和4年度は2地区(郷土芸能しばんば、下立獅子舞)における2人の指導者を認定し、認定者は合計123人となった。 ◎国指定文化財 明日稚児舞事業 補助金 100千円×1団体=100千円 ◎県・市指定文化財保存会補助 補助金 50千円×3団体=150千円 ◎伝承芸能獅子舞保存会補助 補助金 30千円×9団体=270千円					
点 検 ・ 評 価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) コロナ禍において行事の中止を余儀なくされた保存会が多かった一方で、行事の開催・中止にかかわらず、保存・継承のための取り組み(道具の購入など)の状況に応じて、保存会へ補助金を交付した。各保存会において指導者育成とともに伝承芸能の継承が図られている。 平成14年度から運用を開始した伝承芸能の指導者の認定制度は、他の自治体ではあまり見受けられないものであり、本市独自の取組となっている。本制度による認定の価値を高め、保存と継承に繋げている。					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) 各地で行われている伝承芸能の獅子舞の団体からは伝承技術士の推薦はあるが、その他の分野から推薦があまりないため認定者が少ない。 今後、多くの分野で活動している人を幅広く発掘する必要がある。また、継承していくための方策を検討していく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 伝承芸能の継承・指導者育成のため、今後も継続する。					

個別事業名	(2)埋蔵文化財の発掘調査					
担 当 課 等	生涯学習文化課 文化振興係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	0				0
	R 4	50				50
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 開発行為に伴う遺跡の確認調査によって記録保存と開発行為との協議・調整を図る。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 令和4年度は、文化財の調査として、中新遺跡(大布施地区)の市内試掘を行った。					
点 検 ・ 評 価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 包蔵地と確認されている個所について、試掘調査や必要に応じて工事の立会いを行い、速やかに調査を行った。					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) ほ場整備などの大型開発事業について、常に情報を収集し把握に努め、円滑に埋蔵文化財保存に取り組む必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 予め、ほ場整備等大規模開発の時期・規模等の情報収集を行い、全体の把握に努める。 また市内試掘については、速やかに調査できるよう努める。					

個別事業名	(3) 立山黒部ジオパーク事業 ～世界認定に向けた取組の推進～					
担 当 課 等	生涯学習文化課 ジオパーク推進班					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	7,773		0		7,773
	R 4	14,206		732		13,474
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>富山県東部9市町村及び富山湾海域からなる「立山黒部ジオパーク」について、大地やそれに関わる生態系、文化などの地域資源を持続可能な形で活用し、地域振興を進めるため、民間主導のジオパーク事業を構成自治体と連携しながら支援する。</p> <p>※ジオパーク</p> <p>地球科学的な価値をもつ遺産をジオサイト（＝ジオパークの見どころとなる場所）として保全し、教育やツーリズムに活用しながら、持続可能な開発を進める認定プログラム</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年等との比較)</p> <p>1 立山黒部ジオパーク事業</p> <ul style="list-style-type: none">・エリア内の9市町村で構成する支援自治体会議の会長及び事務局を担当する自治体として総会及び幹事会を開催し、積極的にジオパーク活動の推進支援を行った。・事務職員1人を立山黒部ジオパーク協会（以下、協会とする）に派遣するとともに、協会が主導する企画部会などの部会活動で連携した。・黒部峡谷鉄道及び協会とともに黒部峡谷トロッコ電車・ジオパーク体験学習について、市内小学校を対象として実施した（市内7校、児童281人参加）。・地域内でのジオパークの保護活用活動を推進するため「下立の大理石」を中心としたジオサイトを活用した地域づくり事業を富山国際大学、協会、地元関係者等と行った。・市内拠点施設となる吉田科学館や地域観光ギャラリー、歴史民俗資料館、公民館等と密接な連携を図り、ジオパーク自然教室、市民カレッジ事業などでの活用に努めた。・黒部川扇状地の地下水環境における中期変化を調査するため、平成24-25年度に引き続き、2カ年にわたる調査を開始した。 <p>2 地域観光ギャラリー展示空間事業</p> <ul style="list-style-type: none">・4月から11月までの土日祝日、繁忙期平日で延べ103日間において地域学芸員による解説ガイドを配置し、来場者に展示物を紹介した（ガイド配備中の来場者は約4,490人）。・ジオパーク間の連携を高める活動が求められることから、新幹線沿線の9つのジオパークを紹介する展示物を設置した。					
点 検 ・ 評 価	総合評価 A（前年評価 A）			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>ジオパークを地域で活用していくための試みとして、下立地区を対象に行った。地域住民と大学生が交流し地域資源を考えるワークショップを行うとともに、試行的ジオツアーの実施など行い、地域資源の再認識とその活用の可能性を図った。</p> <p>黒部峡谷トロッコ電車・ジオパーク体験学習については、授業内容（浸食・堆積・運搬）に併せたガイドの説明も行い、学校教育との連携を深めた。</p>					
課 題 ・ 改 善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>ジオパークを推進させるためには、自治体間の連携や積極的関与が必須となる。</p> <p>協会が作成したアクションプランに基づき、着実に事業を推進し、ジオパーク全体として一体感を出す必要がある。</p> <p>併せて、市民へのジオパーク活動の浸透が求められる。</p>					
今 後 の 方 向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>ジオパークはユネスコ正式プログラムであり、持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けた活動として、持続可能な開発のための教育（ESD）に積極的に取り組む。</p> <p>協会が中心となって、活発な活動がエリア全体に波及し、令和6年度の再認定審査に評価されるような質の高い活動実績を積み上げていく。</p>					

施策の分野	⑥「市民ひとり1スポーツ」の推進
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・市民一人一人が、それぞれのライフスタイルに応じて、多様なスポーツに主体的かつ継続的に親しむことができるようにするため、市体育協会や地区体育協会と協働し、地域との連携を図りながらスポーツ機会の充実を図る。 ・地域住民が主体となったスポーツ活動を推進するために、スポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブの活動を通じて地域力の醸成を図り、「市民ひとり1スポーツ」の更なる定着に努める。

個別事業名	(1) 市民体育大会					
担 当 課 等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	600				600
	R 4	2,000				2,000
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が一堂に集い、スポーツの実践により体力の向上、健康の増進、レクリエーションによる親睦協和を図り、より健全で明るい市民生活を営むことを目的とする。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 専門委員会等を開催し、各地区の実情を考慮しながら、多くの市民が参加しやすい大会を目指して準備をすすめ、全11地区から市民が参加して開催された。6・7月実施の競技には多くの市民が参加し、地域力の醸成を図ることができた。新型コロナウイルス感染症の影響により陸上競技(大運動会)は中止とした。					
	市民体育大会開催競技、種目数					
	年度	種目数				
	R 3	15 競技 (17 種目) を中止、地域スポーツ事業実施(代替事業)				
	R 4	14 競技 (16 種別) 開催、陸上競技(大運動会) 中止				
点検・評価	総合評価 A (前年評価 B)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 全地区から多くの市民が参加する大会並びに地域が一体となってスポーツに取り組むことができる機会を提供することにより、地域振興やスポーツ推進に大きく寄与している。 令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、全種目の総合順位を決めずに開催し、10月の陸上競技(大運動会)を中止としたが、幅広い年齢層が楽しんで大会に参加し、コロナ禍以前のように市民のスポーツに取り組む機会の確保に努めた。					
	(具体的な改善内容を記載) 市民のスポーツニーズを把握し、市民が参加しやすい種目・試合方法について、各競技団体、各地区体育協会等関係団体との検討を要する。 また、種目によっては、選手を確保できない地区があり、人口が多い地区との差が広がりつつあることから、ふるさと選手制度を導入することとし、その効果は経過観察を要する。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) より多くの市民が参加できる大会となるよう、参加者がわかりやすく競技しやすいルールづくりを創意工夫しながら、引き続き開催していく。					

個別事業名	(2) スポーツ推進委員協議会の育成																									
担 当 課 等	スポーツ課 スポーツ推進係																									
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																				
	R 3	1,742				1,742																				
	R 4	1,687				1,687																				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 住民に対してスポーツ実技の指導及びスポーツに関する指導・助言を行うことにより、市民の生活を明るく豊かにし、スポーツの普及向上を図るとともに会員相互の親睦を図る。(スポーツ推進員 54 人)																									
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ＜教室・研修会開催数と参加人数＞ <table><tr><th>年度</th><th colspan="2">R 3</th><th colspan="2">R 4</th></tr><tr><td>スポーツ教室</td><td>中止</td><td>－</td><td>4 回</td><td>180 人</td></tr><tr><td>出前教室</td><td>6 回</td><td>90 人</td><td>13 回</td><td>195 人</td></tr><tr><td>全体研修会</td><td>3 回</td><td>67 人</td><td>3 回</td><td>75 人</td></tr></table> ◆スポーツ教室 ニュースポーツの普及を目的に、小学生から高齢者まで幅広く教室に参加できるよう内容を工夫して、これまで各中学校区にて教室を開催してきた。3年ぶりの開催となったが、新たな競技に取り組むなど各地区委員が主体となって実施した。 ◆出前教室 各地区の要望を受けて、小学生から高齢者まで幅広い年齢層を対象にニュースポーツ体験会（モルック等）を実施した。その結果、地区で道具を購入し、独自に取り組む様子が聞かれ、普及につながった。 ◆全体研修会 市や地区（黒部市主管）で開催する研修会へ積極的に参加し、自己の活動に対して見直しを図るとともに、意欲向上が図られた。県外への研修も再開し、全国の委員と交流するなど委員の資質向上の一助となった。						年度	R 3		R 4		スポーツ教室	中止	－	4 回	180 人	出前教室	6 回	90 人	13 回	195 人	全体研修会	3 回	67 人	3 回	75 人
	年度	R 3		R 4																						
	スポーツ教室	中止	－	4 回	180 人																					
	出前教室	6 回	90 人	13 回	195 人																					
	全体研修会	3 回	67 人	3 回	75 人																					
点検・評価	総合評価 A（前年評価 A）		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																							
	(上記の評価をした理由) 「委員が企画から運営までを努める地区スポーツ教室の展開」をテーマとして、積極的にニュースポーツの普及が図られている。3年ぶりの参加者を募っての教室開催をはじめ、講師として出前教室を開催するなど、地区のニーズに応じた活動の展開は、各地区より一定の評価を得ている。 カーター記念黒部名水マラソン、市民体育大会等のスポーツイベントの運営にも継続的かつ積極的な協力がなされており、アフターコロナの本市のスポーツ推進に欠かさせない存在となっている。																									
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 引き続き、活動内容の評価が適切に行われるよう、PDCAサイクルを活用し、活動の評価並びに問題点を洗い出し、よりよい活動となるよう継続的な改善に取り組んでいく必要がある。また、委員の高齢化やなり手不足が懸念されており、新たな委員の掘り起こし並びに対応策を検討していく必要がある。																									
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 活動内容・方法について、課題改善を図りながら継続していく。																									

個別事業名	(3) 総合型地域スポーツクラブ						
担 当 課 等	スポーツ課 スポーツ推進係						
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源	
	R 3	860				860	
	R 4	860				860	
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 各種スポーツを気軽に楽しみ、継続的に親しみながら地域住民の健康の保持増進と会員相互の親睦・交流を図る。						
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 総合型地域スポーツクラブは、「KUROBE スポーツファミリー」「KUスポーツクラブ Will」の2クラブがあり、教室型のクラブとしてそれぞれ活動を展開している。 また、教室の他に、「自然散策」「かち歩き」など、両クラブ共にウォーキングイベントを開催している。						
		KUROBE スポーツファミリー		KUスポーツクラブ Will		合 計	
	年度	会員数	教室数	会員数	教室数	会員数	教室数
	R 3	1, 499 人	47	101 人	6	1, 616 人	53
	R 4	1, 437 人	47	135 人	6	1, 572 人	53
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 新型コロナウイルス感染症拡大防止の必要な対策を講じながら活動を実施、会員数や参加者数がコロナ前の数字に及ばないものの、回復傾向にある。教室内容が多種多様で充実しており、「市民ひとり1スポーツ」の推進に大いに貢献している。また、アンケートを通じて、市民ニーズの把握に努め、教室の見直しを図っている。						
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 市民一人一人が、意欲的に参加しやすく、多様なスポーツに親しむことができるよう、創意工夫した活動を展開していく必要がある。特に30～50代の年代が参加できる取組が必要である。						
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 利用者が継続して取り組めるよう、内容の充実を図るとともに、市民ニーズを的確に捉え、新たな利用者の獲得に努めながら継続していく。						

施策の分野	⑦スポーツ施設の整備・充実
方針・目標	・気軽にスポーツを楽しむことができるよう施設整備並びに長寿命化を計画的に進めるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上及び安全管理の強化を図る。

個別事業名	(1) スポーツ施設の整備・充実																									
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係																									
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																				
	R 3	68,570	32,870	248	34,543	909																				
	R 4	45,209	22,061	0	20,000	3,148																				
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 市民が安心してスポーツを楽しむことができるようスポーツ施設の整備を計画的に進めるとともに、身近で利用しやすい施設となるよう利便性の向上や安全管理に努める。																									
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ＜主な施設補修＞ ○総合体育センター (40,909 千円) トイレ洋式化工事 (新型コロナウイルス感染症対策) 公衆 Wi-Fi 整備、外壁工事、劣化度診断・長寿命化計画策定委託 ほか ○健康スポーツプラザ (4,300 千円) ……照明 LED 化更新 ＜社会体育施設及び学校開放利用者数 (人) ＞																									
	<table><tr><th>年度</th><th>R 3</th><th>R 4</th></tr><tr><td>総合体育センター</td><td>172,294</td><td>239,951</td></tr><tr><td>宇奈月体育センター</td><td>5,001</td><td>6,257</td></tr><tr><td>健康スポーツプラザ</td><td>10,535</td><td>10,676</td></tr><tr><td>錬成館</td><td>6,887</td><td>11,450</td></tr><tr><td>計</td><td>194,717</td><td>268,334</td></tr><tr><td>学校開放</td><td>42,474</td><td>46,286</td></tr></table>						年度	R 3	R 4	総合体育センター	172,294	239,951	宇奈月体育センター	5,001	6,257	健康スポーツプラザ	10,535	10,676	錬成館	6,887	11,450	計	194,717	268,334	学校開放	42,474
年度	R 3	R 4																								
総合体育センター	172,294	239,951																								
宇奈月体育センター	5,001	6,257																								
健康スポーツプラザ	10,535	10,676																								
錬成館	6,887	11,450																								
計	194,717	268,334																								
学校開放	42,474	46,286																								
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価 : A A, A, B, C, Dのいずれかを記載																						
	(上記の評価をした理由) 利用者が安心してスポーツに取り組むことができる環境づくりに努めるとともに、安全で身近なスポーツ施設としての機能を果たすため、計画的な施設補修、保守点検に取り組んだ。																									
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 全般的に施設の老朽化が進んでおり、計画的な維持補修が課題である。特に総合体育センターについては、R4年度に実施した劣化度診断調査を元に長寿命化計画を策定し、計画的な維持管理に努める必要がある。より多くの市民が安心して手軽にスポーツに親しむことができる環境整備を行っていく必要がある。																									
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 市民が安心してスポーツに取り組めるよう、施設毎に計画的な環境整備を継続していく。本市スポーツの拠点施設である総合体育センターについては、長期的な修繕計画の元、国庫補助を活用しながら、施設の長寿命化対策を図っていく。																									

施策の分野	⑧競技力の向上
方針・目標	<p>・優秀なクラブチームや全国・ブロック大会で活躍する選手を育成するための支援を行う。</p> <p>・市体育協会が中心となり各競技協会や地区協会の活動を支援することで、クラブチームとの連携・支援体制を強化し、富山県民体育大会での総合優勝もしくは上位を目指すための各種競技力の向上を図る。</p> <p>・意欲ある中学生への支援策として、競技協会を主体としたクラブ創設を促し、部活動以外の活動組織の拡大と競技力の向上を目指す。</p>

個別事業名	(1) 優秀スポーツクラブ育成補助					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	59,609			44,609	15,000
	R 4	59,609			44,609	15,000
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>優秀スポーツクラブ (KUROBE アクアフェアリーズ) の活動を支援することにより、地域の活性化や「黒部」の認知度アップを進める。また、地域貢献として、市内各種スポーツイベントへの参加協力やバレーボール教室等の開催の実施に係る必要な支援を行う。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p><KUROBE アクアフェアリーズの活動について></p> <p>各大会の成績</p>					
	大会名		R 3		R 4	
	Vサマーリーグ		東部大会 2位/12 チーム		東部大会 12位/13 チーム	
	北信越国民体育大会		3位 (国体出場ならず)		2位 (国体出場ならず)	
	国民体育大会					
	天皇杯・皇后杯		準々決勝敗退 (ベスト 16)		2回戦敗退	
	V 1 リーグ		レギュラーラウンド 3勝 30敗 12位/12 チーム V・チャレンジマッチ 1勝 1敗		レギュラーラウンド 10勝 23敗 10位/12 チーム	
<p>大会参加のほか、黒部名水マラソンや黒部踊りなど各種イベントへの協力に加え、「アクア夢プロジェクト」事業にて、市内の保育所・幼稚園から中学校までの子どもたちにバレーボールを通じた交流や講義を行うなど、市民球団として様々な地域貢献活動に積極的に参加した。</p>						
点検・評価	総合評価 B (前年評価 B)			5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>Vリーグ DIVISION 1へ昇格して5年、初の2桁勝利数を記録、レギュラーラウンド 10位となり、チャレンジマッチを経ることなく、次シーズンの残留を決めるなど、チームとしての成長が見られた。一方で、運営面では財政を含め厳しい状況が続いており、チームの成績向上と併せて地域の経済的支援の強化が必要である。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>Vリーグ DIVISION 1で戦っていくためには、常に有力な人材確保と地域のバックアップが必要であり、継続的な支援を図っていく必要がある。また、Vリーグが新しいリーグへの移行を計画しており、リーグ参加条件を満たすためには様々な面で更なる支援が必要となることが想定され、その支援の在り方を検討していく必要がある。</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>運営面も含めた支援を継続していく。</p>					

個別事業名	(2) 出場派遣費・激励費					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	4,771				4,771
	R 4	7,668				7,668
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 全国大会等に出場する選手に派遣費・激励費を支給し、大会出場への意識高揚を図るとともに、参加者の経費負担を軽減し十分に活動できる環境をつくる。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) <全国大会・ブロック大会出場派遣費・激励費> (監督等引率者分を含む)					
	年度	R 3		R 4		
	種別	人数	金額	人数	金額	
	小学生	77 人	961,700 円	121 人	1,898,135 円	
	中学生	105 人	2,335,220 円	142 人	3,489,350 円	
	高校生	88 人	522,000 円	119 人	643,000 円	
	一般	61 人	308,000 円	162 人	905,000 円	
	合計	331 人	4,126,920 円	544 人	6,935,485 円	
	※黒部市「小・中学生」スポーツ振興資金(全国大会5千円、ブロック大会3千円)を含む。 小学生と中学生には派遣費として大会にかかる交通費と宿泊費、高校生と一般には激励費を支給している。激励費は、全国大会8千円、ブロック大会4千円となっている(北信越国体5千円、国民体育大会10千円)。					
	<富山県民体育大会出場激励費> (監督等引率含)					
	年度	R 3		R 4		
	種別	人数	金額	人数	金額	
	2部一般	321 人	321,000 円	336 人	336,000 円	
2部中学	222 人	222,000 円	239 人	239,000 円		
3部	101 人	101,000 円	158 人	158,000 円		
合計	644 人	644,000 円	733 人	733,000 円		
激励費は、一般・中学とも一律1千円を支給している。						
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 大会出場派遣費・激励費については、県内自治体の支給状況等を把握しながら、本市では特に小中学生に手厚く支給している。 支給対象となる選手について各関係機関と情報共有を図りながら漏れなく手続きを進めている。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) スポーツで活躍する選手の経済的負担を軽減し、全国大会等で、より高いレベルの技術に触れることができる環境づくりに努める。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 支援の効果を検証しつつ、継続する。					

個別事業名	(3) 選手強化					
担 当 課 等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	759				759
	R 4	684				684
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) 富山県民体育大会・富山県駅伝競走大会へ黒部市を代表して出場する選手等に対し、大会で十分な活動ができる環境をつくる。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	1 富山県民体育大会 534 千円					
	2 部（郡市対抗）成績					
	年度	R 3		R 4		
	2 部一般	3 位	323 人	4 位	336 人	
点 検 ・ 評 価	2 部中学	10 位	218 人	7 位・躍進賞	239 人	
	2 新規ジュニアスポーツクラブ活動補助金 150 千円					
	創設クラブ					
	年度	R 3		R 4		
	新規クラブ	【3クラブ】 アーチェリー、ソフトボール、スキー		【2クラブ】 ソフトボール、スキー		
課 題 ・ 改 善	総合評価 B（前年評価 B）			5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 夏季県民体育大会では、中学の部において、例年、中位から下位に位置することが多かったが、今年度は飛躍的な競技力向上が見られる。2 部一般においては、一つ順位を落としたが、上位の成績を収めており、一定程度の選手強化・補助の効果が現れている。					
今 後 の 方 向	(具体的な改善内容を記載) 中学生全体の競技力向上を図るため、今後はクラブチーム等を活用した練習や指導体制の充実などの更なる選手育成・強化策が必要である。					
今 後 の 方 向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 令和元年度からよりスポーツに取り組んでいきたい中学生を対象に、競技協会を中心とした新規スポーツクラブ創設を促す補助金制度「新規ジュニアスポーツクラブ補助金事業」を活用してきたが、令和5年度より総合型地域スポーツクラブへと移行するため、本事業は廃止となる。					

施策の分野	⑨スポーツを通じた地域振興
方針・目標	<p>・生涯を通じて豊かなスポーツライフを送ることができる生涯スポーツ社会を実現するため、全国規模の各種大会を開催し、全国トップレベルのプレー観戦の場を市民に提供し、競技力向上に寄与するとともに、スポーツに対する興味・関心を高める。</p> <p>・黒部市を訪れた選手・観客に本市の素晴らしさをPRするとともに、カーター記念黒部名水マラソンや優秀スポーツクラブへの支援をはじめ、各種スポーツを通じて地域の活性化を図る。</p>

個別事業名	(1) カーター記念黒部名水マラソン																							
担当課等	スポーツ課 フルマラソン係																							
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源																		
	R 3	13,000			13,000																			
	R 4	20,000			20,000																			
趣旨等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>大会を通じてランナー及び観客に黒部市の素晴らしさをPRするとともに、本市との交流の輪を広げ、大会を通じて地域の活性化を図る。また、トップレベルの選手を招くことにより、競技ランナーは更なる強化につなげてもらう。一般ランナーは、スポーツに対する興味・関心を高めてもらい、健康・体力づくりの意識付けにつなげていく。</p>																							
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、3年ぶりの開催となった第39回大会は、全国から8,000名を超えるランナーを迎え、2,700名のボランティア・スタッフ、沿道からランナーを応援する多くの市民が一体となり、大会を盛り上げた。</p> <p>【種目】</p> <p>①マラソン(一般)、②10km(一般)、③車いす(一般)</p> <p>④5km(一般)、⑤2.5km(中学生、小学生)、⑥ジョギング(小学生以上)</p> <p>【エントリー数(人)】</p> <table><tr><th>開催年度</th><th>市内</th><th>県内</th><th>県外</th><th>合計</th><th>ゲスト</th></tr><tr><td>R 3</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>R 4</td><td>1,171</td><td>2,846</td><td>4,473</td><td>8,490</td><td>4</td></tr></table> <p>ランナーのコミュニティサイトである「ランネット」では、フルマラソン参加者7,000人以上の大会で、全国第2位という好評価を得ている。</p>						開催年度	市内	県内	県外	合計	ゲスト	R 3	—	—	—	—	—	R 4	1,171	2,846	4,473	8,490	4
	開催年度	市内	県内	県外	合計	ゲスト																		
	R 3	—	—	—	—	—																		
	R 4	1,171	2,846	4,473	8,490	4																		
	点検・評価	総合評価 AA(前年評価 AA)			5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載																			
<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>第39回黒部名水マラソンは、様々な新型コロナウイルス感染症対策を講じ、密を避けるため種目を分け2日間で開催した。全国から8,000人以上のランナーが参加し、大会を通じ、黒部市を大きくPRできた。</p> <p>地区体協や各種関係団体、一般ボランティア等、約2,700名が運営協力しており、地域が一体となった大会運営となった。</p> <p>ランナーのコミュニティサイトである「ランネット」では、フルマラソン参加者7,000人以上の大会で、全国第2位という好評価を得ることができた。</p>																								
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>次回大会は、引き続き新型コロナウイルス感染症対策について、十分な対策を講じた上での実施を検討する。また、第39回大会の反省点を踏まえ、参加規模に応じた駐車場や競技役員・ボランティアの確保、交通規制、給水・給食所・トイレの設置など受入態勢を整えていく必要がある。</p>																							
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>本市最大のスポーツイベント及び地域振興イベントとして、課題を改善しながら、継続していく。</p>																							

個 別 事 業 名	(2) Vリーグ DIVISION 1 黒部大会					
担 当 課 等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事 業 費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	—				
	R 4	—				
趣 旨 等	(本来の目標・目的・対象・意図) KUROBEアクアフェアリーズが参戦しているVリーグDIVISION 1 黒部大会の開催により、市民に国内トップレベルのプレーを観戦する機会を提供し、スポーツに対する興味、関心を高めてもらうとともに、市民が一体となって地元クラブチームを応援できる環境をつくる。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)					
	観客数					
	開催年度	R 3		R 4		
	開催回数	黒部大会 2 回／ ホームゲーム 6 回 【内訳】 総合体育センター 2 回 富山県西部体育館 2 回 富山市総合体育館 1 回 入善町総合体育館 1 回		黒部大会 2 回／ ホームゲーム 4 回 【内訳】 総合体育センター 2 回 富山県西部体育館 1 回 魚津ありそドーム 1 回		
	観客数 (黒部大会のみ)	4, 200 人 1 試合平均 1, 050 人		4, 600 人 1 試合平均 1, 150 人		
点 検 ・ 評 価	総合評価 A (前年評価 A)			5段階評価：AA, A, B, C, Dのいずれかを記載		
	(上記の評価をした理由) 国内トップチームが所属するVリーグ DIVISION 1 の観戦に、多くの観客が本市試合会場へ訪れた。新型コロナウイルスの影響が少なくなってきたことに加え、チームの戦績が過去一番良かったことや、集客のためのPRなどにより、黒部大会だけでなくその他会場のホームゲームを含めても、平均観客動員が前年と比較し増加し、少しずつではあるが、日々のチームの活動の効果が表れてきている。(ホームゲーム全体ではR 3 : 781 人→R 4 : 1, 096 人)					
課 題 ・ 改 善	(具体的な改善内容を記載) これまで以上にファンや地元から愛される「おらがまちのバレーボールチーム」となるため、来場者が楽しみ、そして、応援したくなるチームとなるための仕掛けや大会運営について創意工夫を進めていく必要がある。					
今 後 の 方 向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 引き続き、運営面において支援を図っていく。					

個別事業名	(3) 東京 2020 オリンピックレガシー承継事業					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	—				—
	R 4	4, 090				4, 090
趣 旨 等	<p>(本来の目標・目的・対象・意図)</p> <p>東京 2020 オリンピックで取り組んできたホストタウン事業を契機とし、オリンピック憲章が掲げる理念を引継ぎ、黒部市民がスポーツに親しみ、健康で豊かな暮らしを送るための活動や、スポーツ等を通じた国際交流の取組を推進し、本市の活力向上につなげることを目的とする。</p>					
実績・成果	<p>(数値を用いて具体的に、前年度等との比較)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、東京 2020 オリンピック開催時にホストタウンとして実施できなかった、直接の市民交流を実現するため、新たに開催される「アーチェリー第1回インドカップ in KUROBE アーチェリー大会」にインドアーチェリーチームを招待し、国際レベルの選手との交流の機会を提供した。</p> <p><第1回インドカップ 9/24・25></p> <p>大学生以上 24 名、高校生 31 名、中学生 31 名、小学生 14 名 (計 100 名、内県内 71 名)</p> <p>インドチーム(選手 4 名、随員 2 名)は、24 日のみ参加</p>					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: AA, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	<p>(上記の評価をした理由)</p> <p>インドカップでは、駐日インド大使が来場される中、インドチームの選手と一般参加者が同じフィールドで競技をし、交流を楽しんだ他、大会会場には、参加選手以外の方のために、アーチェリー体験やインド文化や食に触れるコーナーを設置し、たくさんの市民が来場した。</p> <p>また、インドチームの滞在期間中には、市民協力のもと日本文化を体験し、歓迎レセプションには、インド大使館関係者や県知事、その他多くの関係者が参加し、交流を深めるなど、スポーツを通じた国際交流という、本事業の目的に沿うものとなった。</p>					
課題・改善	<p>(具体的な改善内容を記載)</p> <p>本事業を一過性のものとするのではなく、継続的かつ効果的な事業とするための方策の検討が必要。(インドチームの招待を毎年継続することは困難なため)</p>					
今後の方向	<p>(継続・拡充・縮小・廃止などを判断)</p> <p>ホストタウン事業を通じて築き上げたインドとの信頼関係を深め、スポーツ等を通じた国際交流を継続するとともに、あらゆる市民がスポーツに触れることができる機会の創出に努めていく。</p>					

施策の分野	⑩健やかな子どもの育成とスポーツの充実
方針・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツ好きな子どもを育成するため、保育所、幼稚園、学校、地域、家庭、関係機関と連携し、子どもの体力向上を図る。 ・子どもたちのスポーツクラブ、運動部、スポーツ少年団及びクラブチームの活動を行うための環境整備に努めるとともに、地域のスポーツ指導者の人材活用を推進する。

個別事業名	(1) 幼児期の体力づくり事業・ちびっこ・わんぱく教室事業					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	860			355	505
	R 4	860			355	505
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 幼児期から身体を動かす楽しさを感じることで自発的な運動習慣を身に付けるとともに、小学生が多種目のスポーツを体験し、楽しむことで、将来に渡り、スポーツに親しむ環境づくりを醸成する。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) 【幼児期の体力づくり事業】 運動指導 14 回、運動あそび教室 40 回 (年長児(Ⅰ期・Ⅱ期)・年中児の計) 幼児を対象とした「幼児期の体力づくり事業」では、市内保育所・幼稚園の児童を対象に 256 人 (R3:新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし) の児童を対象に運動指導を行った。また、総合体育センターにおいて運動あそび教室を実施し、135 人 (R3:新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし) が参加した。 【ちびっこ・わんぱくスポーツ教室】 教室 1 時間×10 回 小学生を対象とした「ちびっこ・わんぱくスポーツ教室」では、計 32 種目 (マット運動、柔道、ビーチボール、フラダンス、よさこい、陸上、ソフトバレー、カンフー体操等) の教室を行い、320 人 (前年 322 人) が参加した。					
点検・評価	総合評価 A (前年評価 A)		5段階評価: A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 幼児期の体力づくり事業では、4 歳児・5 歳児 256 人 (R3:新型コロナウイルス感染症の影響により実績なし) が指導を受けた。 「ちびっこ・わんぱくスポーツ教室」では、児童 1,928 人の内 320 人: 16.6% (前年 2,034 人の内 322 人: 15.8%) が受講した。また、スポーツ少年団の加入率 32.7%をあわせると、計 49.3% (前年 32.6% 計 48.4%) の児童がスポーツに関わることができた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) 引き続き、運動・スポーツに関わる幼児・児童の割合がさらに増えるよう、内容の工夫や参加しやすい環境づくりを進めていく必要がある。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 幼少期から様々な運動を経験し、「楽しかった」という記憶が健やかな子どもの育成につながる。また、スポーツ推進、ひいては市民ひとり 1 スポーツの実現と競技力向上の入り口となることから、内容の改善を進めつつ、今後も継続して実施する。					

個別事業名	(2) KUROBE 型地域部活動事業					
担当課等	スポーツ課 スポーツ推進係					
事業費	実績	計(千円)	国費	県費	その他	一般財源
	R 3	1,961	1,675			286
	R 4	3,399	1,468		1,212	719
趣旨等	(本来の目標・目的・対象・意図) 生徒の体力・技術向上はもとより、スポーツの自発的な参画を通した「楽しさ」「喜び」を感じることはもちろん、部活動の意義である責任感や連帯感の涵養、自主性の育成および人間性の構築や自己肯定感の向上などといった側面を継承しつつ、「黒部の子は、黒部で育てる」という基本的な考えのもと、市・学校・地域で協働して子どもたちのスポーツ活動を支える地域社会を目指す。令和3年度の実質半年のモデル事業に引き続き通年で取り組み、地域移行の課題の検証を踏まえ、よりよい活動となるよう改善を図り、令和5年度に向けた調整を行う。					
実績・成果	(数値を用いて具体的に、前年度等との比較) ○R4年度実績					
	対象校	競技	生徒数	指導者数	実施日数	
	明峰中	女子バレーボール	25(17)	4(5)	47	
		男子バスケットボール	16(10)	3(2)	59	
		女子バスケットボール	23(13)	2(3)	60	
		アーチェリー	41(31)	3(2)	43	
	明峰中 ・清明中	陸上	78(58)	8(7)	48	
		柔道	20(15)	4	48	
		剣道	38(29)	4	24	
	※()内はR3.9月～3月の数字 アンケートより 生徒の活動全般の満足度「とても満足、満足」の割合88% 保護者の理解度「理解、だいたい理解」の割合98% 教員の負担感「減った、やや減った」の割合74%					
点検・評価	総合評価 A(前年評価 A)		5段階評価：A A, A, B, C, Dのいずれかを記載			
	(上記の評価をした理由) 生徒からは、「ずっと続けてほしい」、「細かく教えてもらえて上達を感じた」、「平日も指導に来てほしい」という意見が多く、生徒の充実したスポーツ指導の機会が確保できたと評価できる。指導者からは、「協会(地域)と中学生でコミュニケーションがとれ、地域の一体感を感じた」「将来的に競技を続けていこうという生徒に支援できる」といった市全体として競技を支える意見があり、地域のスポーツ活性化につながるものと思われる。また、新たに保護者から参加料を集金し、財源確保に取り組んだ。費用負担についての保護者アンケートでは、協力的な回答が多く、一定の理解を得られた。					
課題・改善	(具体的な改善内容を記載) R3に引き続き、指導時間や日数、活動に係る移動・送迎、指導者の質の向上などについて、ご意見をいただいている。生徒、保護者、指導者と情報を共有しながら、望ましい地域部活動のあり方についてさらなる検討を加えていく。					
今後の方向	(継続・拡充・縮小・廃止などを判断) 国等の財源確保に努めつつ、持続可能な活動となるよう推進計画を定める。市内全ての運動部活動で休日を地域移行していくために受皿となる関係団体と体制について協議を続ける。					

IV 学識経験者の意見

教育委員会事務の点検・評価に関する意見（令和4年度分）

黒部市立中央小学校
前校長 齊藤 誠

令和4年度教育委員会事務の点検・評価報告書が届きました。私事ですが、第2次黒部市総合振興計画前期基本計画の1年目から令和4年度の最終年まで、教育委員会事務局その後は黒部市校長会として関わることもことができました。新しい学習指導要領の全面実施とも重なり、令和の教育としての方向が定着するまで、成果も課題も多く、山あり谷ありだったことが浮かんできました。その際に思い浮かんだのは『Well-being』という言葉です。OECDが2019年5月に公表した「学習の枠組み」である「ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）」でも、全ての人が追求し享受すべき姿として、Well-beingが取り上げられています。日本語では、「心も身体も社会的にも」満たされた状態、実感としての幸せ、心の豊かさなどと訳されており、世界的なキーワードの一つです。まさしく、教育委員会が取り組む業務・取組も、幼児から高齢者まで、あらゆる人々が生きがいと意欲をもって日々の生活を充実させることに密接に関連しており、『Well-being』を追求しているように思います。機会をいただきましたので、以下の3点について意見を述べたいと思います。

1 コロナ禍後の多様な事業・取組について

3年に及ぶ新型コロナウイルス感染症の影響により、計画を実行できない事業・取組が複数ありましたが、令和4年度は、新型コロナウイルス感染症予防への十分な配慮と活動の両立に努め、多くの人が集うよう事業・取組が実施されたことが見えました。その例として、第39回カーター記念黒部名水マラソンでは、密を避けるため2日間で開催され、全国から8,000人以上のランナーを迎えることができました。親子での体験事業では、開催回数は減少したかもしれませんが、受講者が2倍となり、つながりが実感されたとの記載がありました。生涯学習フェスティバル開催事業では、展示観覧者もアトラクション来場者も前年比約2倍の増でした。これらのことは、これまでの事業・取組を土台に、時代のニーズや実情を踏まえて改善や改革、前向きな転換を図ることで、新しいスタートを切ったことを表していると思います。

2 幼稚園や小中学校における事業・取組について

目指すべきは『黒部市教育の方針』です。事務の点検・評価を土台に、黒部市の幼児児童生徒の実態、黒部市や県・国の動向を踏まえ、毎年改善が加えられ、小中学校の教育計画書の筆頭に掲載されています。幼稚園や小中学校における事業・取組については、成果と課題を分けて考えるのではなく、常に表裏一体として捉え、毎年バージョンアップするよう、進めていくことが求められます。そのためにも、学校評価や学校だよりやHP等の学校側からの情報発信とともに、家庭や地域からの情報をキャッチする双方向の取組を工夫することが必要だと考え

ます。例として、14歳の挑戦事業では発表会や個人レポート集の作成等、生徒も事業主の方々も手応えと達成感が得られるよう工夫し、成果をあげたことが記載されていました。その他、英語サマーキャンプや姉妹都市交流研修事業でも、参加した児童生徒の充実ぶりを見て取ることができ、次年度以降の取組にも繋がっていくよい事例だと思います。

特別支援教育の推進、いじめ不登校対応の充実と改善、「名水の里くろべ こどもの権利宣言」を活用した人権意識の涵養は喫緊の課題です。Well-beingの視点から見ると、きめ細かな支援を必要としている分野だと思います。対象となる幼児児童生徒数の増加傾向は顕著で、担当部局や学校としても心を砕き時間をかけ、最大限努力していることは報告書からも読み取れます。丁寧な対応や温かな支援等により改善し前向きになった事例もたくさんありますが、それでも、まだまだ悩みは尽きません。長期的で広い視野から適切に対応ができる体制とともに、福祉課や健康増進課等の市長部局との連携も必須です。地域人材の計画的な確保とともに将来的な人材の育成、困ったときに速やかに対応できる組織（相談先や居場所づくり）と継続的なサポートを支える事業・取組を進めていただきたいと強く願っています。

3 家庭や地域の活性化を図る事業・取組について

市主催の事業に加え、各地域の公民館等が運営する事業・取組も活性化の方向で動き出しました。放課後こども教室推進事業では、地域の特色を活かし内容が充実し定着してきたとの記載がありました。豊かな体験事業においても、学校、家庭、地域が連携し、協力体制づくりを進めていることが見えました。KUROBE型地域部活動事業も地域人材と生徒を結ぶ大切な事業です。顔が見える、名前が呼べる、会話の深まりと笑顔があふれる場が、戻ってきたことは大変に喜ばしいことです。

令和6年度から小中学校において、コミュニティ・スクールが導入されます。学校教育をさらに充実・発展させるために、地域の力と知恵を集め、人と人とを関わらせていくことが求められます。地域の幼児児童生徒は、地域の宝です。幼稚園と小中学校、家庭と地域の協働的な学びや体験的な事業、地域の特色や伝統を生かした事業・取組の充実・発展、改革や改善を図り、それぞれにWin-Winとなるよう工夫していきたいものです。そのためにも、誰もが受け身ではなく主人公（当事者）として関与していくこと、自分の未来を自分自身で創るような事業・取組を期待します。

終わりに、朝日新聞のコラム「折々のことば」（鷲田清一）から引用します。

企者不立、跨者不行 （老子）

「企（つまだ）つ者は立たず、跨（また）ぐ者は行かず」と読む。爪立ち伸び上がる者は立ち尽くせず、大股で歩く者は長く歩き続けることができないという意味。（後略）

教育委員会が進める事業・取組は、流行に左右されるのではなく、地道で丁寧で、真摯なものでなければなりません。言い古された感がありますが「チーム黒部」として、事業・取組の対象者や参加者、総括する事務局、その周囲で温かく見守り続ける黒部市民のみんなさんが、Win-Win＝笑顔と感謝が広がるようにと願っています。

令和4年度事業分の報告書を拝読いたしました。

この報告書を拝見し、貴教育委員会の教育行政に対する取り組みについて、以下に意見を述べさせていただきます。

まず、総括として、貴教育委員会は、人間性の育成、心身共の健康の育成、社会教育及びスポーツの強化という3つの方針を掲げ、その達成に向けて、さまざまな施策を展開していることを評価したいと思います。

I. 人間性の基礎を培う家庭教育・地域教育

コロナウイルス感染症の感染が絶えない中での活動は大変な苦労があったかと思います。その中でも事業活動を行われたことに感謝いたします。実際に、参加するのと聴くだけでは得る知識・体感・感情は全く異なりますので、今後も体験事業に力を入れていっていただければと思います。これらの取組は、いずれも、子どもたちの健全な成長と発達を促す上で、重要なものです。学校と地域の連携をさらに深め、子どもたちの成長を地域全体で支える体制を構築することを希望いたします。

II. 心身ともに健康で学ぶ意欲を育てる学校教育

社会生活においても心身ともに健康は最重要課題になっております。近年は心の健康維持が困難な傾向にあります。適応指導教室の取組では令和3年度に比べて通所者数は僅かですが増加でありましたが、相談件数は約50%減となっていることから事業活動の成果とも言えるのではないのでしょうか。豊かな心の育成については、生徒の主体性を育むための取組をさらに充実させ、生徒が自ら学び、考え、行動する力を育むことが重要です。今後は、登校意欲が低下しない根本的な活動にも力を注いでいただくことを希望いたします。

また、国際化教育に関しましても今期は実施できたことを評価いたします。しかし、国際教育は教員の指導力の向上を図ることも大切になってきますので、教員育成にも期待しております。

III. 生きがいと心身の健康を支援する社会教育およびスポーツ

多くの事業活動を展開していただいております、総合評価も良い傾向にありますがせっかくのイベント開催の告知があまりされていないように思えます。公にもっと告知をして周知されることを希望いたします。

これらの課題について、貴教育委員会には、引き続き、積極的な取り組みをお願いしたいと思います。

最後に、貴教育委員会の教育行政に対するご尽力に、敬意を表します。